

平成 29 年度 第 1 回 長浜市総合教育会議 次第

日時：平成 29 年 6 月 28 日（水）14 時 00 分

場所：滋賀文教短期大学

翠湖館 あすなろホール

滋賀文教短期大学見学

1 開 会

2 市長あいさつ

3 滋賀文教短期大学 学長あいさつ

4 意見交換

テーマ 「就学前教育にかかわる人材育成の取組みについて」

（１）滋賀文教短期大学の取組みについて

（２）就学前教育にかかわる人材確保の現状と課題について

5 その他

6 閉 会

【配布資料】

- ・ 資料 1 滋賀文教短期大学の取組事例紹介
（滋賀文教短期大学事業報告、ぶんぶん広場実施要綱等）
- ・ 資料 2 就学前教育にかかわる人材確保の現状と課題について
- ・ 学校便覧
- ・ 学校案内パンフレット

平成29年度 第1回 長浜市総合教育会議 出席者名簿

1 構成員

役 職	氏 名
市 長	藤 井 勇 治
教 育 長	北 川 貢 造
教 育 委 員	井 関 真 弓
教 育 委 員	西 橋 義 仁
教 育 委 員	川 口 直
教 育 委 員	七 里 源 正
教 育 委 員	西 前 智 子

2 滋賀文教短期大学関係者

役 職	氏 名
学 長	松 本 博 文
副学長兼子ども学科長	松 本 秀 章
国 文 学 科 長	前 田 康 一
子ども学科教授	大 橋 英 子
子ども学科准教授	藤 井 美 津 子
事務局長兼総務課長	堀 要
学務課長	三 浦 健
入試キャリア課長	飯 沼 仁 敏

3 オブザーバー

役 職	氏 名
副 市 長	大 塚 義 之

4 事務局

所 属 ・ 役 職	氏 名
教育部長	改 田 文 洋
教育改革推進室長	土 田 康 巳
教育指導課長	清 水 伊 佐 雄
すこやか教育推進課長	宮 川 尚 久
幼児課長	堀 浩 次
教育総務課課長代理	今 井 健 剛
教育総務課主査	大 石 文 哉

総合政策部長	北 川 雅 英
総合政策部次長兼総合政策課長	米 田 裕 治
総合政策課課長代理	野 村 和 博
総合政策課主査	小 川 敦

平成 2 8 年度

滋賀文教短期大学事業報告書

1 滋賀文教短期大学

(1) 教育活動

1. 教育理念と建学の精神

教育理念と建学の精神は、私立学校の根幹であり、全ての教育研究活動に通じていなければならない。そのために、様々な方法で学内周知を図った。

28年度においては、年度当初の教員連絡会にて、学長講話の時間を設け、専任教職員及び非常勤教員に、学園の沿革、教育理念及び建学の精神、教育目標、学訓について研修を行った。

学生には、入学前のプレキャンパスセミナーからふれると共に、入学後も入学式での学長式辞やオリエンテーション等にて説明を行った。

【教育理念】

「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教員の養成が重要である」

【建学の精神】

「知育・徳育・体育」の鼎立と調和の取れた人間形成

2. 教育目標、3つのポリシー

国文学科、子ども学科とも「教育目標」、「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」、「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」、「入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）」に基づき教育活動を行った。

3. 免許・資格取得情報

平成28年度の教員免許・資格取得状況は次のとおりであった。

◇免許・資格取得状況

(単位:人)

	国文学科	子ども学科	合 計	卒業者数
小学校教諭二種免許状		5	5	国文学科 17人
幼稚園教諭二種免許状		34	34	
学校図書館司書教諭		3	3	
図書館司書	13		13	子ども学科 47人
保育士資格		33	33	

(注)学校図書館司書教諭は、申請者数を示す。

4. FD（ファカルティ・ディベロップメント）活動

FD委員会が中心となり、教員の教育力の向上、教育内容等の改善等に取り組んだ。

①学生アンケートの実施

各授業で授業アンケートを実施し、学生からの評価を受けた。教員は、FD委員会が取りまとめた評価結果を受けて、「授業検討表」に改善の方策を記載し、授業改善に取り組んでいる。各授業のアンケート結果に、この授業検討表を添付し、学生は学務課窓口で閲覧できることとなっており、単に授業内容の向上・改善のみならず、学生への説明責任を果たすとともに、次年度に学生が履修する際に参考となるようにした。

②学内研修会

○第1回FD研修会 平成28年4月27日(水) ①13:00～14:00

②15:00～16:00

- ・公的研究費にかかるコンプライアンスについて(講話)

講師:堀要事務局長

- ・アクティブラーニングの基礎知識と実践(講話)

講師:京都光華女子大学短期大学部ライフデザイン学科講師

小山理子先生

○第2回FD研修会 平成29年2月22日(水) 15:30～16:30

「アクティブラーニングの実践について～授業の改善・充実～」

「アクティブラーニングとは」(講話)FD委員長 前田康一教授

「アクティブラーニング実践事例報告」(ディスカッション)

5. 留学生支援の充実

平成28年度留学生は1年生3人、2年生2人が在籍した。学習支援は国文学科を中心に支援し実施し、生活支援を留学生支援室が中心となってサポートした。留学生各自の異文化理解などが進まず、特に生活面での指導の徹底に苦慮した。平成29年度は、生活指導、学習支援も含め、指導内容の変更、生活指導の方法の変更等も検討する必要がある。

6. 学生懇談会の実施

平成28年度も、大学と学生が直接意見交換を行う学生懇談会を実施した。大学側からは運営協議会委員が、学生からは奨学生や自治会長、サークルの部長等が参加し、有意義な懇談を実施することができた。ここで得られた意見は、大学で検討し、学生にフィードバックできるように努めている。

◇主な意見と検討結果

学 生 か ら の 意 見	検 討
【施設・設備に関して】 ①暖房の設定温度が低くて寒い。 ②大学付近の公園近くにカーブミラーを設置してほしい。	①設定温度については、環境省推奨の温度を目安にしていることを理解してほしい。 ②カーブミラーについては、国文学科の大学への提案でもあったが、検討していきたい。
就職講座の年間スケジュールの掲示を目立つようにしたり、LINEで周知したりするなどしてほしい。また、相談に行っても不在の場合があるので、相談を予約制にしてほしい。	意見を参考にして、4月から見やすく掲示を行う。
担任制があったが、面談もあまり無く、相談は親しい先生にしていたので、あまり制度の意味を感じられなかった。	担任制については今後しっかりとスケジュールを立てて行っていく。

7. 保護者対応

①保護者懇談会の実施

保護者に対する説明責任を果たすため実施した。学習成果の獲得のために、大学と保護者が一体となって取り組む姿勢を示し協力を求めた。

○平成28年4月1日(水) 入学式終了後

(目的) 入学式に出席した新生の保護者を対象に、大学での学びや友人関係のほか、就職や授業内容に関することなど、高等学校までとは異なることを説明した。

(内 容)・大学の学びの特徴

・年間スケジュール

- ・高等学校と大学との違い
 - ・実習、就職、進学等の支援に関する本学の特長
- (参加者)約 50 人

②定期試験のお知らせ送付(保護者向け文書発送)

保護者からの定期試験に関する問い合わせが多かったことから、1 年次保護者を対象に定期試験に関する注意点などを記した文書を送付した。特に子ども学科の学生は、定期試験の結果により、実習科目の履修が不可となる場合もある。そのため、事前に保護者に対して周知し、定期試験の重要性について理解を求めた。

8. 入学前教育の実施

入学予定者に対して、「入学前サポートプログラム」と称し、高校から大学への橋渡しや、基礎学力や学習意欲の向上をねらいとして取り組んでいる。

国文学科では、入学までにアドミッションポリシー(入学者受け入れの方針)にある力を高めることを目的に、新たに、漢字学習を通した「国文学科で学ぶ基礎固め」、「学習習慣の確立」、「課題に向けて解決していく力」等の向上に取り組む課題を設定した。学習成果の確認のための、中間確認テストや登校日における面談を実施し、単に課題の提供のみならず、きめ細やかな学習支援で、入学前のアイスブレイク、信頼関係の構築に努めた。

更に、入学後も継続して学習を進めることに取り組んでおり(高大接続教育)、入学前から卒業まで一貫して漢字学習に取り組むことは、漢字の修得はもちろん、ディプロマポリシー(学位授与の方針)にある「学びの中から課題を見つけ出し、自ら解決に導くための必要な能力を身につけている」といった力を身につけていくことであり、面談による定期的な学習状況の確認や励ましを行い、達成に向けて支援している。

また、それに加えて、育成 AO 入試合格者には「指定図書の調べ学習」も新たに課した。育成 AO 入試合格者のみの登校日を設け、課題を通したディスカッションや解説を行うことで、アドミッションポリシーにある力を高めるのみならず、早期合格者のモチベーションの維持、入学への期待を高めることに努めた。

子ども学科では、アドミッションポリシー(入学者受け入れの方針)に定めている意欲や力を入学までに高めることを目的として、入学前教育を実施している。

長浜警察署との協定にもとづいた「交通安全啓発指導」についての課題を課した。これは交通安全を子ども達に啓発するための有効な方法を考え、紙芝居やペープサートなどを作成してきてグループ内で発表するものである。また発表をもとにグループでのディスカッションを行って意見を交換した。こうした作業を通して保育者・教育者として必要な力と意欲を高め、また入学後のプログラムにも接続させた。「交通安全啓発指導」の発表後には教員との面談も行なって入学予定者の現状把握やアイスブレイクに努め、入学後の支援につなげるようにした。

また、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭に必要なピアノについて、不安を払拭し入学後スムーズなスタートが切れるよう、音楽の学び方講座を2回、ピアノレッスンを4回行った。

育成 AO 入試合格者に対しては上記のプログラムに加え、9月から12月の間に4回の登校日を設け、教員との面談および入学前の指導、卒業生(現役保育士)との懇談、2度の音楽の学び方講座を実施した。これによりアドミッションポリシーに定めている力の育成を図り、意欲の向上と維持に注力した。

このほか、入学予定者に向けたオリエンテーションである「プレキャンパスセミナー」を実施し、学習支援、友人作り、不安の解消、学習意欲の向上に向けた取り組みを展開した。セミナーでは、保護者向けの説明会も実施し、入学前に知るべき情報などを提供した。

◇プレキャンパスセミナー

日 時	主な内容
第 2 回 プレキャンパスセミナー 平成 29 年 3 月 22 日 (水) 10:20～17:00	・入学にあたってのガイダンス ・各学科オリエンテーション ・委託訓練生説明会 ・個別相談

9. SD (スタッフ・ディベロップメント) 活動

大学職員が担う職域は幅広く、SD (職能開発) の取組みは非常に重要である。また、大学運営や改革においても、職員の力は大きい。

このため、職員の資質向上を図るため、大学として組織的にSDを実施することとした。具体的な取り組みとしては、各学期の目標設定と自己点検及び、それを基にした課長との面談、月一回の事務局会議後にSD研修会 (職員が輪番で講師を担当)、各種外部の研修会への派遣等を実施した。

◇ SD研修実施状況

- 28. 4. 27 公的資金取扱について
- 28. 6. 28 入試制度と広報活動について
- 28. 7. 28 経営強化集中支援事業について
- 28. 8. 29 学生の課外活動支援について
- 28. 9. 30 第三者評価・経営改善計画
- 28. 11. 29 教務担当者研修会報告
- 28. 12. 26 高大接続改革の動向について
- 29. 1. 30 求人を取り巻く環境について

◇ 研修成果

各研修を通じ職員の専門性の向上、分掌を越えた知識の習得を行った。

FDにおいては、アクティブラーニングを取り入れた授業の実践方法を学ぶことにより、学生が主体的に授業に参画する意義について研修を行った。

SDにおいては、研修毎に職員が講師となり、自己研鑽と共に、大学の諸課題について意識の向上を図り、主体的な学校運営に携わる意識が向上した。

(2) 学生の状況

1. 学生自治会・課外活動

学生自治会のもとに大学祭実行委員会や各サークルが組織され、学生の活動の中心となっている。平成 28 年度のサークル数は次のとおりであった。

◇サークル数

14 団体 (100 名) ※延べ人数	文芸、書道、就職活動研究、国際交流、創作、美術、軽音、写真、ボードゲーム、テニス、ハンドメイド、アウトドア、ダンス、運動
---------------------------	--

2. 大学祭

学生自治会 (大学祭実行委員) が中心となり、学務課と企画・運営を行っている。

多くの地域住民の来場があった。

- ・日時: 平成 28 年 10 月 29 日 (土)、30 日 (日)
- ・予算: 50 万円

良寛の碑拓本展、大学書展のほか、授業成果発表展示、模擬店、仮装大会、クイズ大会など

を開催した。また、30日は、過去5年以内の卒業生を対象にした「げんき会」(ホームカミングデー)を実施したほか、「人と人をつなぐ絵本の活用」と題した講演会も開いた。

3. 学生 の健康維持等への支援

学生 の定期健康診断を平成 28 年 4 月 4 日に実施し、学生 の健康状態の把握に努めた。ほとんどの学生 が受診した。結果は学生 すべてに個人通知書を手渡しし、医師の指導が必要な学生 には再度校医による診断を行った。欠席した学生 については、各自に健康診断を受診させ、その結果を提出させた。(健康診断実施依頼事業所:近畿健康管理センター)

4. 交通・通学

通学手段としては、JRによる通学のほか、バイク・自家用車通学も多く、そのための駐車場のスペースを確保し便宜を図っている。なお、バイク・自家用車通学者に登録を義務づけている。

バイク・自家用車通学に関しては、田村町(大学所在地)内からマナーの低下を指摘されることが過去にあったこともあり、入学直後のオリエンテーション等の機会を通じて学生 への交通安全教育を行っている。

5. 安全への配慮

避難・消火訓練を、長浜消防署の協力により、平成 28 年 5 月 31 日に実施し、また、学生 寮については 5 月 8 日に実施し非常時対応への訓練を行った。

6. 学生 への経済的支援

経済的に学納金等の納入が困難な学生 に対し、様々な支援で就学の機会を確保している。

①滋賀文教短期大学奨学金制度

本学の発展に寄与する学生 に奨学金を給付している。

②延納及び分納

学納金の納入が困難な学生 に対し、延納及び分納支援を行っている。その際、必ず面談を実施し、計画的な納入を指導することとしている。

◇各種奨学金受給者数

種 類	人 数			備 考
滋賀文教短期大学奨学金 Ⅰ種 200,000 円 Ⅱ種 150,000 円	1 年生	5	9	全てⅡ種奨学生 返還義務無
	2 年生	4		
日本学生支援機構奨学金	1 年生	23	37	返還義務有 (貸与) ※休止中の学生は除く
	2 年生	14		
保育士修学資金	1 年生	6	10	返還義務有 / 返還免除有 (滋賀県の保育士養成施設を卒業し、滋賀県内の 保育施設に 5 年間勤務した場合、返還免除)
	2 年生	4		

7. 学生寮

平成 28 年度は、学務課と寮監の連携のもと、寮在住の職員と協力して学生寮の運営に取り組んだ。

◇学生寮利用状況

(単位: 室、人)

棟 別	部屋数	1 年生	2 年生	計	備 考
グリーンハイツ	23	7(2)	7(1)	14(3)	ワンルーム様式
松翠寮本館	10	3	2	5	2 人で1部屋

平成 28 年 8 月 3 人退寮。カッコは退寮者数。

(3) 進路指導の状況

1. 就職・進路支援

2 年生に対しては、平成 27 年度より行ってきた個別面談や就職講座を引き続き実施してきた。

1 年生に対しては、入学直後から就職支援講座を行い、新卒の際の進路・就職先だけではなく、将来にわたったキャリア形成について考えた上で進路選択ができるように指導した。

そのために実施した就職支援講座は下表のとおりである。

年	月 日	時間	対象学科	対象学年	内容
平成 28 年度	4 月 27 日	4 限目	国文学科	2 年生	就職活動の行動計画
	4 月 27 日	4 限目	子ども学科	2 年生	就職活動の行動計画 (一般企業希望者対象)
	5 月 10 日	4 限目	両学科	1 年生	「働く」について考える
	5 月 25 日	3 限目	国文学科	1 年生	ビジネス環境研究
	5 月 25 日	2 限目	子ども学科	2 年生	履歴書、応募書類の書き方
	5 月 25 日	4 限目	国文学科	2 年生	履歴書、応募書類の書き方
	6 月 1 日	2 限目	子ども学科	1 年生	ビジネス環境研究
	6 月 1 日	2 限目	子ども学科	2 年生	学内ハローワーク相談会
	6 月 1 日	3・4 限目	国文学科	2 年生	学内ハローワーク相談会
	6 月 8 日	3・4 限目	国文学科	2 年生	学内ハローワーク相談会
	6 月 15 日	3・4 限目	国文学科	2 年生	学内ハローワーク相談会
	6 月 22 日	2・3 限目	国文学科	1 年生	業界と職種研究
	6 月 22 日	3・4 限目	国文学科	2 年生	学内ハローワーク相談会 個別面接練習
	6 月 22 日	2 限目	子ども学科	2 年生	学内ハローワーク相談会
	6 月 29 日	2 限目	子ども学科	1 年生	業界と職種研究
	6 月 29 日	2 限目	子ども学科	2 年生	面接練習
	6 月 29 日	3・4 限目	国文学科	2 年生	学内ハローワーク相談会 個別面接練習
	7 月 6 日	3・4 限目	国文学科	2 年生	学内ハローワーク相談会

					個別面接練習
	7月13日	2限目	子ども学科	1年生	業界と職種研究
	7月13日	3限目	子ども学科	1年生	Excel 講座
	7月20日	3限目	国文学科	2年生	夏休みの過ごし方
	8月3日	2限目	子ども学科	2年生	面接練習
	10月3日	5限目	国文学科	2年生	個別面談
	10月7日	1限目	子ども学科	1年生	履歴書の書き方
	10月7日	3限目	国文学科	2年生	個別面談
	10月7日	4限目	国文学科	1年生	履歴書の書き方
	10月12日	4限目	子ども学科	2年生	秋採用に向けて
	11月18日	1限目	子ども学科	1年生	面接練習Ⅰ
	11月25日	4限目	国文学科	1年生	面接練習Ⅰ
	12月16日	1限目	子ども学科	1年生	面接練習Ⅱ
	12月16日	4限目	国文学科	1年生	面接練習Ⅱ
2017年	1月6日	1限目	子ども学科	1年生	先輩から学ぶ就活日記
	1月13日	1限目	子ども学科	1年生	就活直前対策
	1月13日	4限目	国文学科	1年生	先輩から学ぶ就活日記
	1月13日	5限目	国文学科	1年生	就活直前対策

その他、個別面談をととして、個々のニーズに合わせた就職及び進学への支援、業界及び職種選択の支援をきめ細かく行った。

公務員を目指す学生に対しては、下表のとおり教員が主にオフィスアワーの時間を利用して個別対応の時間を設け、公務員一般教養試験・専門試験の対策を行った

担当科目	担当教員
政治	松本秀章、神谷昌史
経済	松本秀章、荒木重幸
社会	松本秀章、神谷昌史
地理	松本秀章、前田康一、井上明美
日本史	荒木重幸、前田康一、井上明美
世界史	松本秀章、井上明美
国語	神谷昌史、永尾眞、戸塚麻子、細田あかね、辻本桜子、杉本あゆみ
文学・芸術	神谷昌史、戸塚麻子、細田あかね、井上明美
思想	神谷昌史、井上明美
数学	松岡学
物理	松岡学
化学	松岡学
生物	松岡学
現代文	神谷昌史、戸塚麻子、細田あかね、辻本桜子、杉本あゆみ
古文	杉本あゆみ

英語	辻本桜子、松田茶茶
判断推理	松岡学
数的推理	松岡学

また、卒業後のフォローアップとして、過去５年以内の卒業生を対象とした、「げんき会」を大学祭と同時に実施し、卒業生の現状把握と卒業後のケアを行うとともに、卒業生が学生時代の思い出を思い起し、日ごろの疲れをリフレッシュさせ、仕事へのモチベーションを高められるように配慮した。

2. 就職・進路結果

平成２８年度の就職及び進路結果は下表のとおりである。

○学科別の就職・進路状況

	卒業者数	一般企業	施設 園・公立保育所・公立児童養護 施設	公務員・団体職員・公立小学校 ・公立認定こども園・公立幼稚 園・公立保育所・公立児童養護 施設	私立学校事務・私立小学校・私 立認定こども園・私立幼稚園・ 私立保育所・私立児童養護施設	福祉・医療	進学	臨時職員（公私立の小学校・認 定こども園・幼稚園・保育所・ 官公庁・福祉・医療）	自営・その他
国文学科	17	10	1	0	2	2	0	2	
子ども学科	47	9	2	22	4	1	7	2	

○子ども学科の小学校教諭、幼稚園教諭、保育士の就職者の内訳

小学校				幼稚園				保育所				認定こども園			
公立		私立		公立		私立		公立		私立		公立		私立	
正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時
1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	15	1	0	1	6	2
3				0				16				9			
28															

・平成２８年度の取り組みについて

①取り組みの効果

平成２８年度の就職率について、平成２７年度より良い結果を出すことができた。昨年度の就職率である９８．９から、平成２８年度は１００％という成果を出すことができた。

正規雇用率においても、昨年度の７６．５％から上昇した。国文学科は１００％、子ども学科は８０％であった。

主に図書館や一般企業での就職を希望する学生が在籍する国文学科において、就職

率と正規雇用率がともに100%であったことは評価されるべき点である。

公務員を目指す学生に対しての支援として、昨年度と同様に公務員試験対策講座を開催し、1年生の21名が参加した。1日4時間30分の講座を4日間実施し、数的推理、判断推理、人文科学、社会科学、自然科学、文章理解の分野について学習させた。受講者のうち84%が講座について「良い」もしくは「まあまあ良い」と回答している。また、95%の受講生が今後の学習に役立つ内容だったと回答しており、公務員を目指す学生が学習する良い機会を与えられたと考える。

学生が1年生の間から継続してきた就職支援講座や個人面談により、働くことに対するモチベーションが高く、学生がそれぞれの将来について考えられるようになり、早期から就職活動に積極的に取り組むことができていた。

就職支援講座の回数を平成28年度は前年度より増加させることができたため、学生に対して進路指導をする時間が多く確保できた。

学生に対する個別支援の回数を増やすことや教職員の日ごろからの声かけによって、自ら教職員に進路や就職について尋ねる機会をなかなか持てない学生にも指導を行なうことができていた。個々人に合わせた指導が行なえたことで、就職率と正規雇用率の向上につながった。

②今後の課題

就職率は100%だったので、今後は就職先がそれぞれの学生に更にマッチするように支援する。そのために、企業に訪問をして情報を収集する必要もある。

図書館司書の求人は事務職等と比較すると全国的に数が少ないこともあり、就職を希望する地域に正規の司書の求人がない場合は、一般企業に就職する国文学科の学生も見受けられた。子ども学科においても、公立園への就職を希望する学生のすべてが公立園で正規雇用される結果には至らなかった。

今後は、公務員を目指す学生に対して、基礎学力を向上させる機会をさらに設ける必要がある。

編入学を希望する学生に対して、本学で取得している単位が進学先でどの程度単位互換される見込みであるかなどの説明をより丁寧におこなう必要がある。

4. 平成29年度に向けて

平成28年度までは、就職支援講座は希望者のみ参加する形式だったので、参加者の数が少ないケースも見受けられた。平成29年度からは授業と重複しない時間に就職支援講座を設定し、原則全員が参加することを必須とする。それによって、学科や学年に応じて全ての学生に対し進路や就職について教える機会を設けていく。さらに、就職支援講座に外部講師や卒業生を招き、講座の内容の充実を図る。

公務員試験対策講座についても同様に希望者のみ出席する形式だったため、参加者が少なかった。筆記試験や公務員試験について今後は、学習する意欲が高い学生や日程の調整が可能な学生だけではなく、全員の参加が可能な時間帯に設定することが必要と考える。また期間についても、数日間の短期集中型では学習の効果はあまり見られないので、具体的な学習成果が見られるように中長期型に変更することが望ましい。

本学は小規模大学の特性をいかして個別支援を充実させられることが利点であるが、個々人への支援と前述のような全体への支援との両面から学生にアプローチできるようにしていく。

そのためには、学科の教員とキャリアデザインセンターの職員との連携をさらに深める。学生のプライバシーや意向に配慮しながらも、学科とキャリアデザインセンターで学生の進路に関する情報を共有し、専門分野がそれぞれ異なる教職員が学生に有

益な情報をより多く与え、学生が自分自身で主体的に進路について決定できるようにする。本学は担任制度を設けており、日々の学生の動向は学科の教員が把握している。図書館司書や保育職から事務職などへ進路希望を変更する学生についても、学科とキャリアデザインセンターとで連携して支援する。

(4) 情報環境の状況

1. 学生の情報環境

①情報処理教室

- ・学生用PC 30台（富士通） ・レーザープリンタ 3台（リコー）
- ・教員用PC 1台（富士通） ・サーバー機 1台（富士通）

②図書館

- ・学生用PC 15台 ・レーザープリンタ 2台

③キャリアデザインセンター

- ・学生用ノートPC 2台（富士通）

④ラーニングカフェ

- ・学生用ノートパソコン 6台（富士通）

2. 図書館の情報環境の整備状況

- ・図書館コンピュータシステム
- ・利用者用端末3台
- ・有料データベース2種
- ・国立情報学研究所の目録所在情報サービス加入継続
- ・国立国会図書館図書館向けデジタル化資料送信サービス加入継続

(5) 社会活動（大学開放）の状況

1. 湖国カルチャーセンター

大学開放講座については、前年度に引き続き高齢者をおもな対象とした戦後文学の講座に加えて、平成28年4月より障害者差別解消法が施行がされたこともあり、地域の人々が安心して暮らしていける共生社会をめざす「遊び」とユニバーサルデザイン」の講座をあらたに開講した。また、出前講座については地域の人たちのニーズに応えられるように幅広い分野の講座を開設することに努めたところ、各団体より依頼がありそれぞれの取り組みに活用いただくことができた。子育て講演会については外部講師を迎えて、参加者に絵本の読み聞かせの効果を五感で感じていただく体験型の講演会を実施してもらったところ受講者からは大変好評であった。

◇大学開放講座 開設講座数9 開講講座8 受講人数148人 実施時間167時間

講座名	期間・回数	講師名	受講者数
書道講座－基本と作品制作－ 春学期・秋学期	4月11日～3月6日 (66回)	国文学科 非常勤講師 猪飼和喜夫	80
水彩画講座－身近なものを絵にしましょう－ 春学期・秋学期	4月20日～2月15日 (20回)	子ども学科 非常勤講師 那須 善之	48
詩仙－李白の世界に遊ぶ－	5月26日～7月14日 (8回)	国文学科 非常勤講師 野原 薫	5
戦後文学を読む1－梅崎春生「桜島」－	5月31日～6月7日 (2回)	国文学科 准教授 戸塚 麻子	7
戦後文学を読む2－武田泰淳「審判」－	6月21日～6月28日 (2回)	国文学科 准教授 戸塚 麻子	5

「遊び」とユニバーサルデザイン	9月1日～9月2日 (2回)	子ども学科 准教授 八田 清果	3
〈夏休み短期集中〉たのしい小学生英語	—	国文学科 講師 辻本 桜子	0

後援:長浜市・長浜市教育委員会/しが生涯学習アカデミー参画事業

○出前講座 開設講座数20

内訳(子育て支援7、家庭教育3、健康1、福祉1、読書教育2、語学1、文学3 その他2)

開催講座数4 受講人数222人 実施時間4時間30分

講座名	講師	日時	場所	対象	受講者数
子どもたちを豊かな読書に導く読み聞かせ	国文学科 教授 平井むつみ	6月16日	長浜市民交流センター ふれあいホール	ジーバーぼこぼこ 長浜地区協議会会員 (読み聞かせボランティア) 年齢 60歳～80代	70
身体を動かして楽しもう	子ども学科 教授 松本 文夫	8月23日	長浜市立 西黒田公民館	湖北地区障害者生活 支援センター「あーと」 知的しょうがい、発達しょう がいの児童 (小学2年～高校1年)	27 (児童 20 支援者 7)
漢詩を楽しむ	国文学科非常勤講師 野原 薫	8月27日	彦根市 西地区公民館	彦根市西地区公民館主 催事業「いきいき講座」 年齢 60代～80代	70
ことばを育てる子どもの 読書	国文学科 教授 平井むつみ	10月21日	長浜市役所 多目的ルーム	長浜市言葉を大切にす るまちづくり協議会 会員	55

○講演会

講演会テーマ	講師	日時	場所	受講者数
人と人をつなぐ絵本の活用	立命館大学大学院 応用人間学科 増田梨花	10月30日	実習館1階 501号室	39

○展覧会

作品展	出展内容	日時	場所	入場者数	備考
第39回 大学書展	国文学科学生 29名 湖国カルチャーセンター 書道講座受講生 33名 作品 74点	10月29日 10月30日 (2日間)	実習館1階 502号室	78	第46回滋賀県芸術 文化祭参加事業 同時開催: 第5回良寛の碑拓本展 滋賀文教短期大学図書館 所蔵展 12点
水彩画講座 水曜回第6回作品展	湖国カルチャーセンター 水彩画講座受講生 22名 作品 51点	平成29年 3月9日～ 15日 (5日間)	実習館1階 502号室	96	同時開催: 学生美術演習習作展 15名・15点

2. ぶんぶん広場

H28 年度の“ぶんぶんひろば”は下記のような目的をもって実施した。

- (1) 子ども学科の学生が“ぶんぶんひろば”を通して乳幼児とふれあい保育実践力を高める。
- (2) 学生と教員の保育力を生かして社会貢献する場を学生に設け、子育て中の地域の住民と楽しく有意義な時間を共有する。
- (3) 本学の課外活動として子育て支援や保育活動を通して 1.2 年生の交流を活性化する。

○ ぶんぶんひろば開催状況・内容

回	日 時	内 容	参加学生		参加者	
			2 年生	1 年生	子ども	大人
1	5/18 (水)	ふれあい遊び	25	9	25	23
2	6/15 (水)	開放日 (子育て相談)	実習中	11	11	10
3	7/20 (水)	夏遊び	21	11	43	32
4	9/21 (水)	開放日 (子育て相談)	自由参加	10	15	12
5	10/19 (水)	感触遊び	授業中	20	20	15
6	11/30 (水)	手作り楽器	授業中	20	32	27
7	12/21 (水)	リース作り	授業中	21	40	32
8	1/11 (水)	冬遊び	授業中	18	36	27

3. 環びわ湖大学コンソーシアム単位互換制度による履修生の受け入れ

他大学からの登録は 2 件あったが、本学開設の実際の授業には出席はなかった。

4. 科目等履修生の受け入れ

なし

5. 研究生の受け入れ

なし

6. 委託訓練生の受け入れ

委 託 先：滋賀県立高等技術専門校

受入学科・数：子ども学科 5 名

(6) ボランティア活動

平成 27 年度、本学と長浜市、長浜警察署と交通安全推進活動に関する三者協定を結んだ。平成 28 年度もこの協定に基づく交通安全ボランティアのほか、地域で開催される事業等へのボランティアとして学生が参加した。一例を紹介する。

1. 交通安全ボランティア

駅改札前での交通安全啓発活動、保育所等交通安全教室参加、交通安全のつどいでの寸劇披露、交通安全フェスティバルの参加

2. 通学合宿

長浜市で開催している通学合宿に 8 名が参加した。市内小学生と公民館に宿泊しながら通学し、集団生活を学ぶことで自主性や自立性を育んだ。9 月下旬頃から各地域において、4 日間の活動を行った。

3. ツーデーマーチ

長浜市文化スポーツ振興事業団主催のウォーキングイベント「びわ湖長浜ツデーマーチ」が、5月14日・15日に開催され、学生がボランティアとして参加した。14日は本学が参加者のサービスポイントとなり、学生が飲み物等の提供や誘導を行った。15日はゴール会場となる豊公園で、参加者への支援を行った。学生が笑顔で対応し、主催者や参加者から好評であった。

(7) 社会奉仕活動

乳がん撲滅のための全国的な運動である「ピンクリボン」運動の長浜での啓発イベントに、学生13名がスタッフとして参加した。乳がんに関する資料配付、無料検診の呼びかけを行ったほか、親子連れの来場者に向けて工作教室を開き、イベントを盛り上げた。

(8) 地域社会との交流

1. 長浜市と滋賀文教短期大学との協力に関する包括連携協定による交流活動

長浜市・短大の協力関係を拡充し、地域社会の発展に寄与するため、教育・保育に関する事業、文化の振興に関する事業など多角的に協力し実施するため協定を平成27年度に締結し、子育て支援開放講座を開催するとともに、大学の教育への助言を受けた。

2. 長浜市と長浜警察署及び滋賀文教短期大学との交通安全推進活動に関する連携協定による活動

交通事故防止のために一体となって活動し、交通安全意識、交通マナーの高揚を図り地域社会の安全に寄与することを目的に締結し、交通安全ボランティアを組織し活動を行った。

4. 委員としての参画

長浜市をはじめとした地域の教育機関等からの要請により、地域の高等教育機関として、または学識経験者として、本学教員が構成委員等として参画した。本務に支障がない限り承認し、地域社会との交流や貢献を積極的に推進した。

就任委員会等

松本教授	田村駅周辺整備基本構想策定懇話会委員 長浜市まち・ひと・しごと創生総合戦略アドバイザー
神谷教授	長浜市総合計画審議会委員
大橋教授	長浜市教育振興基本計画策定委員会委員 長浜市とらひめ認定こども園全国人権保育研究会指導講師 長浜市子ども・子育て会議委員 長浜市社会教育委員会委員 長浜市教育委員会事務評価委員会委員
平井教授	長浜市図書館協議会委員 長浜市子ども読書活動推進会議委員
荒木教授	長浜市人権尊重審議会委員 長浜市図書館協議会委員
前田教授	長浜市スポーツ振興推進委員会 米原市教育委員会いじめ問題調査委員会委員 滋賀県教育会理事会
小林准教授	長浜市要保護児童対策地域DV協議会会長 長浜市青少年問題協議会委員 甲良町要保護児童対策地域協議会委員
井上講師	東近江市教育委員会緊急対応特別委員会委員
今若助教	東近江市子ども・子育て会議

その他、滋賀県内市町からの各種委員委嘱

5. 子育て支援講習の開催

滋賀県シルバー人材センター連合会より、シニア対象再就職・就業支援講習会の依頼を受け、本学において子育て支援講習を開催した。本学子ども学科の専任教員 8 名が 90 分 12 講座を担当し、20 名の受講者があった。

◇平成 28 年度子育て支援講習日程

8 月 22 日（月）～26 日（金）

月日	時間	講習内容	講師名
8 月 22 日（月）	10:30～11:30	開講式・オリエンテーション	連合会
	12:30～14:00	子どもの生活習慣と健康	松田茶茶
	14:10～15:40	園が求める子育て支援について	藤井美津子
8 月 23 日（火）	10:00～11:30	子どもの遊びと体験①	藤井美津子
	12:30～14:00	身体の発達と病気	小林美保子
	14:10～15:40	子どもの病気の対応について	小林美保子
8 月 24 日（水）	10:00～11:30	子育て支援サービスについて	八田清果
	12:30～14:00	子どもの心の発達と保育者	井上明美
	14:10～15:40	発達障がいへの理解と支援	井上明美
8 月 25 日（木）	10:00～11:30	子どもの遊びと体験②	今若幸子
	12:30～14:00	子どもと関わる時の心構え	大橋英子
	14:10～15:40	子どもの安全と事故	大橋英子
8 月 26 日（金）	10:00～11:30	子どもの遊びと体験③	梅本伸子
	11:30～12:30	長浜シルバー人材センター講話	長浜 SC
	12:30～13:00	閉講式	連合会

(9) 国際交流活動

1. 留学生の受け入れ

平成 28 年度は、タイ王国セントジョーンズ学園より 3 名の留学生を国文学科に受け入れた。平成 27 年度入学の留学生 2 名と合わせ 5 名の在籍となった。

2. 研修旅行

平成 28 年度タイ研修旅行については、応募者数が最少催行人数 10 名に満たなかったため、中止することとなった。

3. 国際交流活動

平成 28 年度は、国際交流活動の一環として、長浜市民国際交流協会の主催する「ながはま多文化共生フェスタ」でタイの文化等を紹介した。

(10) 学生募集活動

平成 28 年度（2016 年度）の学生募集活動は、①オープンキャンパス ②ガイダ

ンス参加 ③高校訪問の3つを中心に展開してきた。

また、平成27年度に入試広報課とキャリアデザインセンターを一本化し、入試キャリア課としたことで入口と出口が統一化され、在校生情報や卒業後の進路情報などについても情報が得やすくなった。

オープンキャンパスに関しては、来場者が昨年度比105%と若干増加であった。

高校内ガイダンスや会場ガイダンスなどの回数を増やし、接点を持った高校生に積極的にオープンキャンパスに誘導したことが増加の要因となった。なお、保護者の参加は昨年並みであった。

また、平成28年度入学試験から導入した育成AO入試については定員数において国文学科10名に対し5名、子ども学科5名に対し17名となり、子ども学科において定員数を大幅に上回ったのに比べ、国文学科においては下回った。要因として保育士や幼稚園教諭免許状の取得など卒業後のキャリアがイメージできる子ども学科に希望が偏り、司書資格の取得はできるものの深い教養を身につけるという国文学科は、受験生に対するPR期間が短く、高校生への周知徹底や育成AO入試を受験してもらう魅力伝達が上手くできていなかったことが考えられる。平成30年度入学試験に向けて、今後十分な時間の中でオープンキャンパスやガイダンスを活用し、広報活動量を増やしていかなければならない。

一方、平成29年度入学試験に関しては、志願者は昨年度比128.9%（国文学科は前年比139%、子ども学科は前年比125%）、入学者は両学科合わせて昨年度比145%という結果であった。

国文学科においては、入学者数が昨年度比を上回ったものの、定員数に対し充足率60%と昨年度に引き続き定員を下回った。国文学科を希望するオープンキャンパス等の来校者が前年度48名に対し、平成28年度53名と若干ながら増加した。子ども学科においては、入学者数が昨年度比を大幅に上回り、定員数を大幅に超える結果となった。

出願者数獲得に向けての課題は2つ考えられる。1つ目は受験生が複数校のオープンキャンパスに参加し、厳しく比較、検討していることから、オープンキャンパスの雰囲気やミニ講義等の内容について今まで以上に高校生に立場に立った魅力ある内容に進化させて行かなければならない。2つ目は、オープンキャンパスへの来校者のさらなる増加だと考えられる。現状以上に高校生との直接接点を持ち、来校者数増に繋げる必要がある。そのためには高校生との接点の場であるガイダンスに積極的に参加する必要があると考え、平成28年度は141回のガイダンス参加や学校訪問に注力した。今後ガイダンスや高校訪問に注力し、募集活動を強化していかなければならない。

最終的にはオープンキャンパスの在り方が最終的な志願者増加の鍵となるため、今後はミニ講義の内容やプログラム構成なども再検討し、在学生を巻き込みながら教職員が一丸となってオープンキャンパスを運営していくことが求められる。

平成30年度の募集活動に関しては、引き続き国文学科の募集活動に力を注がなければならない。また子ども学科に関しては、近隣大学において前年度に児童学コースが設けられ、本学と距離も近いことから志願者に大きく影響することが予想されることから定員確保に向けて、教職員が一丸となり、また在学生も巻き込みながら、オープンキャンパスの内容やプログラム構成、ガイダンスでのPR強化、高校訪問回数の増加をもって定員確保に向かう工夫が必要である。

【入学試験制度】

次の5種類の入学試験を実施した。

1. 指定校推薦入試：面接、書類審査

指定校推薦特典：通常入学検定料30,000円を10,000円。

通常入学料 220,000 円を 100,000 円

同法人高校からの受験生は入学検定料、入学料免除

2. 推薦入試：

A 日程・B 日程：志望理由書、書類審査、面接

C 日程：志望理由書、書類審査

3. 一般入試（前期・後期）：学力試験（国語総合）、書類審査、面接

4. 社会人入試（前期・中期）：志望理由書、書類審査、面接

* 社会人入試後期試験は志願者なし

国文学科入学者のみ「年齢×10,000 円」の授業料減免制度を適用（上限 400,000 円）。

5. 育成AO入試 自己PR・面談

* オープンキャンパスへの参加必須

【入試結果】（平成 29 年度入学生）：（ ）は男性数 （単位：人）

	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
国文学科	50	32(1)	32(1)	32(1)	30(1)
子ども学科	50	75(8)	74(8)	63(8)	63(8)
計	100	107(9)	106(9)	95(9)	93(7)

（注）志願者数、受験者数、合格者数、入学者数には留学生・委託訓練生も含まれます。

(11) 教員研究の状況

1. 教員研究費の整備

研究計画に基づき専任教員が申請することにより、学長の承認を得て、自らの専門分野における学術研究・教材研究に要した経費として、一律 10 万円まで支給した。

外部資金を活用しての研究業績は、近年、日本学術振興会の科学研究費助成事業の共同研究者として関わるほか、主任研究員として 27 年度に採択されるなど外部資金獲得に留まらず、社会的な信用や存在感を高めることとなった。

2. 紀要の発刊

各学科で論文の執筆、共同研究を行い、紀要を発刊した。

◇ 研究題目・執筆者

執筆者職氏名	主題
准教授 戸塚麻子 教授 神谷昌史	高木健夫『北京百景』—『東亜新報』掲載時における題目一覧
講師 杉本亜由美	『無名抄』考
教授 荒木重幸	子どもと向き合う ～子育てへの一提言～
准教授 八田清果 准教授 小林美保子 教授 大橋英子	「発達面での気になる子ども」の保育の現状と支援 —N市内の保育園・幼稚園・認定こども園への質問紙調査から分析する—
講師 松田茶茶 准教授 小林美保子	保育者養成課程学生における健康・保健に関する意識的／行動問題への考察 —保育・幼児教育と青年健康教育の関連性の観点から—

講 師 井上明美	学生支援における学生相談の専門性 ー多様化・身体化する主訴と相談内容よりー
講 師 辻本桜子	高校野球・選手宣誓分に関する一考察 ー「感動を与えたい」という表現を巡ってー

(12) 図書館の状況

施設面に関しては、平成27年度に図書委員会で認められた書架設置計画に従って、図書館3階に、郷土資料用の書架を設置し、開架資料の収容能力の充実を図った。また、平成27年度よりの懸案であったインターネットコーナー及び視聴コーナーの改善計画を図書委員会の了承を受けて次年度の実施に向けて策定した。

資料収集に関しては、第一回の図書委員会において、子ども学科から絵本の充実についての要望があり、それを受けて例年より多くの予算配分をして収集にあたった。その結果として閲覧室に絵本架の増設が必要となり、これも次年度に向けて2階閲覧室のレイアウト変更計画を図書委員会に諮り了承された。

その他、今年度は、子ども学科からの要望として出された「実習期間中の日曜日開館」を試験的に行ったが、利用者がほとんどなかったため、次年度以降は継続しないこととなった。

また、「教職員の貸出に期限を設ける」件に関しては、二度の図書委員会を経て、図書館の原案である「貸出期限を60日とする」が認められ、平成29年度より実施することとなった。

平成28年度を終えての図書館の課題は、学生の貸出冊数の落ち込みである。授業関連での図書館利用は増加しているものの、学生の個人的な興味関心に基づく読書の量が減ってきている。これは、本学のみならず社会的な現象ではあるが、短大生にとって読書は重要であるという認識のもと、学生の読書に関しての取り組みを今後充実させていく計画である。そのために、学年末に全学の学生対象にアンケートを取らせていただいた。次年度このアンケートの結果分析を踏まえて対策を立てていきたい。

1. 図書館利用状況

貸出人数	貸出冊数	受入冊数	奉仕対象者
1,664 人	3,030 冊	1,700 冊 (注)受入冊数の内訳 購入 856 冊 寄贈 843 冊 弁償 1 冊	209 人 (注)奉仕対象者は、在学生(133 人)、教職員(63 人)、学外者(11 人)、その他(2 人)を指す。

2. 広報・展示、その他

- ・「図書館だより」年4回発行
- ・「テーマ別月刊通信」10回発行
- ・テーマ別資料展示9回（内2回は教員による企画展示）
- ・ミニ展示3回（内1回は教員との共同展示）
- ・司書のおすすめ本10回
- ・図書館公式アカウントによるTwitter
- ・第5回良寛拓本展を国文学科書道の授業と共催
- ・図書館を利用した講義回数110回

(13) 施設・設備の状況

平成28年度に実施した主な施設・設備の更新及び改修等状況は次のとおりであった。

- ・ 校舎中庭スロープ工事 (1, 836, 000円)
安全確保・バリアフリー化のため通路段差を解消するためスロープを設置
- ・ 学生寮(グリーンハイツ)エアコン更新 (1, 026, 000円)
エアコンが老朽化のため除湿機能・冷暖房機能が著しく低下しており、学生の生活環境を改善
- ・ 防犯用校内監視カメラの設置 (539, 568円)
夜間無人対策、日中における不審者への対応を行うため各出入口を中心に監視カメラを設置し、安全管理を行った。
- ・ 体育館2階サッシ廻り改修工事 (1, 447, 200円)
経年劣化によりシーリングが剥がれ、雨水等の侵入があり雨漏り、建物の劣化につながるため改修工事を実施
- ・ 本館事務室・研究館2階教員研究室エアコン更新 (6, 480, 000円)
本館事務室・研究館2階教員研究室エアコンは、1990年代に設置され、20年以上が経過し、故障時対応ができないことから教職員の執務環境の維持のため更新。
- ・ 本館305教室空調機器更新 (1, 725, 840円)
老朽化(2000年設置)のため冷房能力が低下し教室内全体の空調ができない状態にあり、学生等の授業環境を改善するため更新。
- ・ 中庭改修工事 (2, 160, 000円)
長尺ビニールシートの経年劣化によりめくれ、破れが著しいため全面インターロッキングにより施工し、安全管理を行う。
- ・ 大学ホームページの更新 (2, 104, 000円)
大学の広報媒体として円滑かつ迅速な情報提供を行うため更新。
- ・ 本館4階402教室・403教室改修工事 (1, 620, 000円)
入学予定者の増及びカリキュラム構成上教室の不足が生じるため、4階作業室を一般教室に改修
- ・ 本館4階廊下改修工事 (1, 555, 200円)
4階教室改修に伴い廊下部分の壁面塗装及び廊下照明を改修し学内環境整備を行う
- ・ 本館4階402・403教室エアコン設置工事 (1, 620, 000円)
402・403教室改修に伴い、両教室ともエアコンが設置されていないため、学生の学習環境を整備するため設置。
- ・ 電力自由化に伴う電力供給会社の変更
平成28年4月より電力供給が自由化されたことにより、電力供給会社の見直しを行い、新電力会社と需給契約を締結し電力料金の節減を図った。

(14) 自己点検・自己評価

短期大学は、学校教育法第百九条により、その教育研究水準の向上に資するため、文部科学大臣の定めるところにより、当該大学の教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備(次項において「教育研究等」という。)の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表しなければならない。

1. 平成27年度第三者評価

一般財団法人短期大学基準協会による第三者評価により、本学の掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて改善に努めており、短期大学評価基準を満たしていることから適格であると認定された。

2. 平成27年度 自己点検・評価報告書の作成と公表

平成27年度の自己点検評価を評価報告書に取りまとめ、ホームページで公表した。

3. 平成28年度 自己点検の実施

①「教員自己目標管理シート」及び「職員自己点検」

短期大学基準協会が定める評価基準においては、日常的に点検・評価を行うことと、全構成員が自己点検に関わることが求められており、本学においても、全教職員が実施するような取り組みを行っている。

教員においては、「教員自己目標管理シート」にて教育活動、研究活動、学内活動、社会的活動・関与という項目について年度当初に目標を設定し、各学期ごとに達成度を点検している。

職員においては、「職員自己点検表」にて、同じく年度当初に目標を設定し、各学期ごとに達成度を点検している。また、部署内での問題意識の共有や、コミュニケーションを図るために、職員自己点検表を元にした課長との面談を行っている。本人の成長したい姿と、組織として成長して欲しい姿を一致させ、効果的な人材育成を目指している。

②委員会等活動報告書

各学科や各種委員会の活動を点検するとともに、次年度への円滑な引き継ぎを行うために、年度末に学科長及び委員長が年間の総評と次年度の課題を記載している。

年度の議事録とともに添付され、いつでも閲覧できるようになっている。

③「授業アンケート」及び「授業検討表」

教員が授業内容の改善及び向上を図るため、「学生アンケート」を実施している。

ステークホルダーに教育の質を保証するため、ホームページ上で結果を公表することとした。（ただし、個別の講義については、個人が特定される恐れもあることから、学科全体のアンケート結果のみ公表することとした）この結果を受けて、学科長が分析・総評し、これについても公表している。

個々の講義については、教員が集計結果に基づいて、「授業検討表」を作成し、次年度の改善等について具体的に示している。各授業のアンケート結果に、この授業検討表を添付し、学生は学生ホールで誰でも閲覧できることとなっており、授業改善に対する説明責任を果たすとともに、次年度に学生が履修する際に参考となるようにしている。

学校法人松翠学園
滋賀文教短期大学
機関別評価結果

平成 29 年 3 月 10 日
一般財団法人短期大学基準協会

滋賀文教短期大学 の概要

設置者 学校法人 松翠学園
理事長 松本 博文
学 長 松本 博文
A L O 永尾 眞
開設年月日 昭和 27 年 4 月 1 日
所在地 滋賀県長浜市田村町 335

<平成 28 年 5 月 1 日現在>

設置学科及び入学定員（募集停止を除く）

学科	専攻	入学定員
国文学科		50
子ども学科		50
合計		100

専攻科及び入学定員（募集停止を除く）

なし

通信教育及び入学定員（募集停止を除く）

なし

機関別評価結果

滋賀文教短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成29年3月10日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成27年6月17日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて改善に努めており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当該短期大学は、設立以来「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」という教育理念を継承し、「信義」・「至誠」・「質実」・「温和」・「漸進」を学訓として、社会に貢献できる人材を養成するため、地域とともに歩んできた。建学の精神は、各学科の教育目的・目標とともに、学生便覧や学内の掲示、ウェブサイト等によって学内外に表明されており、定期的に確認がなされている。自己点検・評価は、「自己点検・自己評価規程」により設置された自己点検・評価委員会による毎年の点検・評価のほか、教職員がそれぞれ自己点検・評価を行う仕組みが作られている。

学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受け入れの方針が定められ、学生便覧やウェブサイトにより学内外に周知されている。教育課程は、教育課程編成・実施の方針に基づいて編成され、学科会議で定期的に見直されている。学習成果は、建学の精神及び教育目的・目標に基づき、五つの能力として定められ、「達成確認シート」、「教職課程履修カルテ」、GPA、学生授業アンケート、卒業生アンケート等様々な方法によって評価されている。

入学者受け入れの方針は学生募集要項にも明示し、進学相談会、オープンキャンパス等で説明している。平成27年度から導入された「育成AO入試」では、「入学前サポートプログラム」や面談によって入学者受け入れの方針との適合を図り、退学者の減少につとめている。

学習成果の獲得に向けて、国文学科では「サポーター制」、子ども学科では「担任制」によってきめ細かい支援・指導を行っている。学生に対する支援は入学前サポートプログラムから「元気会」による卒業生支援まで継続されている。授業においても、ラーニングカフェや図書館を利用したアクティブラーニング等、少人数教育の利点を生かした取り組みが展開されている。就職支援は入試キャリア課を中心に行われており、学生の生活支援としては学生委員会が設置され、教職協働の支援体制が整備されている。成績優秀な学生の就学支援として奨学金制度が活用されている。なお、評価の過程で、学生募集要項にお

いて募集人員が適切に記載されていないという、早急に改善を要する事項が認められたが、その後、機関別評価結果の判定までに改善されたことを確認した。今後は、当該短期大学の継続的な教育の質保証を図るとともに、その向上・充実に向けてより一層の自己点検・評価活動が求められる。

地域に根差す短期大学という位置付けから、湖国カルチャーセンターの公開講座、未就学児及びその保護者を支援する「ぶんぶんひろば」での活動、そして長浜市との包括連携協定及び交通安全推進活動に関する連携協定の締結等によって、地域の発展に寄与している。さらに「基礎力プログラム」や、「通学合宿」等の企画において学生がボランティアとして積極的に参加し、地域に貢献している。

教員組織は短期大学設置基準を充足し、教育課程編成・実施の方針に基づいて整備されている。専任教員の研究活動のための各種規程を整備し、研究日も確保され、研究成果はウェブサイトに掲載されている。FD 規程に基づき FD 委員会を中心に FD 活動が行われている。事務組織は、組織規程・事務分掌規程に基づき編成され、責任体制が明確化されている。また、SD 規程に基づく SD 活動により、業務の改善が図られている。

校地・校舎面積は短期大学設置基準を充足しており、グラウンド及び体育館、図書館も適切な面積を有している。講義・演習室等は適切に確保され、機器備品も整備されている。施設設備は規程を整備し、適切に維持管理されている。火災・地震時の対策、情報セキュリティ対策も講じられている。

学校法人全体及び短期大学部門は、過去 3 年間、事業活動収支が支出超過となっているが、経営改善計画を策定し改善に取り組んでいる。

理事長は、建学の精神をよく理解し、学校法人全体の運営に責任を持っている。理事長は学長を兼任し、理事会、運営協議会、教授会、事務局の運営にしっかりとリーダーシップが発揮されている。評議員会は、理事定数の 2 倍を超える人数で組織されており、理事長を含め役員の諮問機関として役割を果たしている。なお、評価の過程で、監事が出席していない理事会、評議員会が複数回開催され、学校法人の業務及び財産の状況について適切に把握した監査業務が行われていないという、早急に改善を要する事項が認められたが、その後、機関別評価結果の判定までに改善されたことを確認した。今後は、より一層ガバナンス機能が適切に発揮されるよう学校法人運営を行うことが求められる。

教育情報の公表及び財務情報の公開はウェブサイトにより行っている。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質保証を図り、短期大学の主体的な改革・改善を支援することにある。そのため、本協会では、短期大学評価基準に従って判定される前述の「機関別評価結果」や後述の「基準別評価結果」に加えて、当該短期大学の個性を尊重し、その向上・充実を図る観点から以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

本協会は当該短期大学の以下の事項について、高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らし、優れた成果をあげている試みや特長的な試みと考える。

基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

〔テーマ A 建学の精神〕

- 建学の精神は、学生便覧やウェブサイトへの掲載、入学当初のオリエンテーション等によって表明され、常に教職員や学生の目に留まるように学内各所に掲示されている。特に、国文学科においては、「基礎力プログラム」の授業を通して、アクティブラーニングで建学の精神を実践するための学訓を認識できる環境が作られている。

〔テーマ B 教育の効果〕

- 達成確認シート、教職課程履修カルテ、授業評価アンケート、卒業生アンケート、進路先アンケート等、学習成果点検の試みが活発に展開されている。授業評価アンケート全体の結果はウェブサイトで公開されるとともに、科目ごとの考察と授業改善計画が書かれた「授業検討票」については、個々の学生が自由に閲覧できる仕組みが整えられている。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

〔テーマ B 学生支援〕

- 学生支援については、国文学科ではサポーター制、子ども学科では担任制によって、少人数の学生に対し 1 名の教員が配置されきめ細かく対応している。さらに、ラーニングカフェの開設、グループワークなどに対応した図書館レイアウトの配置など、アクティブラーニングの促進が図られている。

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

〔テーマ A 人的資源〕

- 職員の自発的研鑽を促すため、各自が「職員自己点検表」を学期ごとに作成し、達成目標を設定し学期末には自己評価を行っている。また月 1 回 SD 研修会を開催し、研鑽の場を設けている。事務職員個々においても事務局全体としても、PDCA サイクルを回す仕組みが整っている。

基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス

〔テーマ B 学長のリーダーシップ〕

- 学長は、入学式後の教員連絡会においては非常勤を含む全教職員に対し、建学の精神及び教育理念について、周知徹底を図っている。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は以下に示す事項について、当該短期大学が改善を図り、その教育研究活動などの更なる向上・充実に努めることを期待する。なお、本欄の記載事項は、各基準の評価結果（合・否）と連動するものではない。

基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

〔テーマ B 教育の効果〕

- 両学科において教育の点検・評価の様々な試みを実施されているものの、データを集約・解析するシステムが整っていないので、測定したデータを十分に活用できる仕組みを整備されたい。

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

〔テーマ D 財的資源〕

- 余裕資金はあるものの、学校法人全体及び短期大学部門の事業活動収支が3年間支出超過となっているので、収支バランスの改善が望まれる。
- 短期大学全体の収容定員充足率が低いので、充足率を上げるよう努力されたい。

（3）早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

〔テーマ B 学生支援〕

- 評価の過程で、学生募集要項における募集人員を入試方法の区分ごとに明記せず、入学定員に適合した記載になっていないという問題が認められた。

当該問題については、機関別評価結果の判定までに改善されたことを確認した。今後は、当該短期大学の継続的な教育の質保証を図るとともに、その向上・充実に向けてより一層の自己点検・評価活動に取り組まされたい。

基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス

〔テーマ C ガバナンス〕

- 評価の過程で、監事が出席していない理事会、評議員会が数回開催され、学校法人の業務及び財産の状況について適切に把握した監査業務が行われていないという問題が認められた。

当該問題については、機関別評価結果の判定までに改善されたことを確認した。今後は、より一層ガバナンス機能が適切に発揮されるよう学校法人運営に取り組まされたい。

3. 基準別評価結果

以下に、各基準の評価結果（合・否）及び当該基準を合又は否と判定するに至った事由を示す。

基 準	評価結果
基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果	合
基準Ⅱ 教育課程と学生支援	合
基準Ⅲ 教育資源と財的資源	合
基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス	合

各基準の評価

基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

当該短期大学は、「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」という創設者の言葉を教育理念として掲げ、「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成を建学の精神とし、現在では教員養成のみならず多様な人材の養成を目指している。この建学の精神は、学生に対しては入学前教育や入学式、オリエンテーション、学生便覧、学内施設への掲示などによって周知され、教職員に対しては学長による講話によって共有されている。さらに学外に向けては、ウェブサイトや大学案内にて表明されている。また、建学の精神の意義は、定期的に点検と再評価が行われている。

学科の教育目的・目標は、学生便覧や学内の掲示、大学案内、ウェブサイト等によって、学内外に表明されるとともに、毎年点検・検討され、自己点検・評価委員会や運営協議会において確認されている。子ども学科における学習成果については、学生の質との整合性を図るため、学位授与の方針の一部見直しが検討されている。

学科の学習成果は、それぞれ五つの能力として定められ、学生便覧により学内外に表明されている。学習成果は、学科ごとに量的・質的データとして測定され、学科会議により定期的に点検されている。

学習成果の査定は、GPA、単位修得状況、成績評価基準、達成確認シート、教職課程履修カルテや、授業アンケート等各種アンケートによって行われ、教員はその達成状況を確認するとともに、授業改善計画を記した「授業検討票」を提出している。このように授業の向上と充実を図るためのPDCAサイクルを有しているが、さらに、得られたデータを多角的に分析し、改善計画に反映させるという仕組みの確立が望まれる。授業評価アンケートの結果はウェブサイトで公開され、授業検討票は学生が学務課窓口で閲覧できるなど、十分な公開性をもっている。

「自己点検・自己評価規程」により設置された自己点検・評価委員会によって、毎年、自己点検・評価が行われている。また、平成25年度に茨城女子短期大学と相互評価実施に関する協定書を交わし、短期大学間相互評価を行うとともにその結果をウェブサイトに公開している。さらに、各教職員が「個人目標自己管理シート」、「職員自己点検表」によって自己点検・評価を行う仕組みを有している。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

学位授与の方針は、それぞれの学科の学習成果に対応しており、学生便覧、ウェブサイト等により学内外に表明されている。

教育課程は、教育課程編成・実施の方針に基づき適切に編成され、学科会議で定期的に見直されている。教職課程を廃止したため、国文学科においては教育目的・目標及び教育課程の見直しを課題としている。成績評価の基準、卒業の要件、資格取得の要件は学則に示している。成績評価については、各授業科目の評価方法をシラバスに明示し、適切に評価している。シラバスには、授業外学習を含む必要事項が明示されている。

各学科とも学習成果は、建学の精神及び教育目的・目標に基づき定められている。個々の学習成果は、GPA、達成確認シート、授業アンケート、進路先アンケート等で査定可能である。

学生の卒業後評価の取り組みとして、進路先へのアンケート、実習訪問時の聴取、卒業生対象の「元気会」におけるアンケート等があるが、データの集約、分析、活用が課題となっている。

教員は、達成確認シート、授業アンケート、進路先アンケートなどによって学習成果を把握し、特に学生による授業評価に対しては「授業検討票」を作成して授業改善を行っている。職員は、平成 27 年度から月 1 回、SD 研修会を行っている。図書館、ラーニングカフェ等コンピュータ配備の施設が、アクティブラーニング等に活用されている。

学習支援として、全ての入学手続き者に対して各学科の特質に合わせた入学前教育を実施している。入学後は、国文学科はサポーター制、子ども学科は担任制を通してきめ細かい指導を行っている。

生活支援については学生委員会が設置され、教職協働の支援体制が整備されている。また学生懇談会や学生支援に関するアンケートを実施して学生の要望を把握し、ピアノ室などの学習設備やキャンパス・アメニティなどの充実に生かしている。学生のメンタルヘルスケアやカウンセリングについては、平成 27 年度から専任教員による学生相談の体制が整えられている。しかし、障がい者に対応した施設や、発達障がいのある学生への支援については課題が残る。就学支援については「滋賀文教短期大学奨学金制度」を整備している。姉妹校提携しているタイ国からの留学生に対しては、外国人留学生規程に基づいた奨学金を支給し、学務課内に支援室を設け、経済面・学習面の支援体制を整えている。また、地域に根差す短期大学として、子育て支援を目的とした「ぶんぶんひろば」、地域の子どもの「通学合宿」等、学生のボランティア活動や地域貢献活動の場を積極的に展開し、学生の日頃の学習成果を生かした活動が活発に行われている。

進路支援については、入試キャリア課が、入学から卒業までの一括したデータ管理を行い、進路支援に取り組んでいる。国文学科においては「基礎力プログラム」によって社会人基礎力の育成を図っている。

入学者受け入れの方針は、学生募集要項、ウェブサイト、進学相談会、オープンキャンパス等において明示している。特に平成 27 年度から、高大接続改革実行プランに対応した「育成 AO 入試」を導入し、入学後の学習につながる動機付けを行っている。またプレキャンパスセミナーによって入学後の学生生活についての情報を提供している。なお、学

生募集要項における募集人員が入試方法の区分ごとに明記されていなかった点については、機関別評価結果の判定までに改善されたことを確認した。

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

教員組織は短期大学設置基準を充足し、教育課程編成・実施の方針に基づいて整備されている。

専任教員の研究活動のための各種規程を整備し、研究日も十分確保され、研究成果はウェブサイトにて公開されている。ここ数年、学会誌や研究紀要への投稿も増加傾向にあり、科学研究費補助金等外部資金も獲得している。専任教員の国外における国際会議の出席や海外派遣については、「就業規則」及び「海外派遣研究員規程」の範囲内で出席が可能である。FD 規程に基づき FD 委員会を中心に FD 活動が行われている。

事務組織は、組織規程、事務分掌規程に基づき編成され、責任体制が明確化されている。また、SD 規程に基づき SD 活動を原則月 1 回行い、業務の改善が図られている。さらに職員の自発的な自己研鑽を促すため、職員は職員自己点検表を学期ごとに作成し、達成目標を設定し学期末には自己評価が行われている。

教職員の就業に関しては諸規程を整備し、周知している。

校地・校舎面積は短期大学設置基準を充足しており、グラウンド及び体育館、図書館も適切な面積を有している。講義・演習室等は適切に確保され、機器備品も整備されている。ただし、エレベーター、点字ブロック等が設置されておらず、障がい者への配慮は十分とはいえない。

施設設備は規程を整備し、適切に維持管理されている。火災・地震時の対策として、消防計画を立案し、火災・地震を想定した防災訓練を全教職員、学生の参加により年 1 回実施している。情報セキュリティ対策も講じられている。

情報機器は平成27年度に情報処理室のコンピュータ設備を更新し、情報教育資源として情報教育の充実を図っており、ラーニングカフェや図書館等の学生共用スペースにはパソコンを設置し学生の就学・進路支援を行っている。

当該短期大学の収容定員の充足率は低く、学校法人全体及び短期大学部門の過去 3 年間の事業活動収支は支出超過となっている。学校法人全体では余裕資金もあり、貸借対照表比率は健全な状態であるが、経営改善計画を策定し、平成 31 年度を目途に短期大学の学科再編、姉妹校（タイ国）からの留学生受け入れなど定員充足率の改善、支出においては管理経費の削減などを目指している。なお、教育研究経費比率は適正である。

基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス

学長を兼任する理事長は、創設者の教育理念及び建学の精神を十分理解し、あらゆる機会を通じ、学内はもとより、広く学外に学校法人の設立の意義や目的を発信している。

理事会は、学校法人の業務を決し、決算年度の事業計画や事業報告も諮っており、第三者評価に対する役割を果たし責任を負っている。理事は、学校法人の建学の精神を理解し、健全な経営について学識及び識見を有している。理事は、私立学校法及び寄附行為に基づ

き、適正に選任されている。

学長は、教育研究活動を向上・充実できるよう、学内組織を整備し、リーダーシップを発揮している。学長のリーダーシップの下、地域貢献に積極的に取り組んできた成果として「平成 27 年度私立大学等改革総合支援事業（タイプ 2 特色を発揮し、地域の発展を重層的に支える大学づくり）」に採択されている。また、「平成 27 年度私立学校施設整備費補助金」にも採択され、子ども学科における保育士養成や、子育て支援（「ぶんぶんひろば」等）を充実させるための実習施設を建設することとなった。さらにコンピュータの配備、ピアノ室の増設等施設設備も充実しつつある。

各部署の管理職で構成された運営協議会が学長の諮問機関として機能している。また、教授会は全専任教員で構成されており、教育研究上の審議機関として役割を果たしている。

教授会の下には、委員会等を設置しており、規程により運営されている。ただし、教授会、運営協議会、委員会の関係（連携）が明確でない上に、委員会の活動実態に関する記録が整備されているとは言い難い。各種規程、委員会規程等を今後更に整備し、議事録を整備する体制を確立して、委員会の機能が十分に発揮されることが望ましい。

監事は、寄附行為に基づき選任され、学校法人の業務又は財産の状況について、毎会計年度監査報告書を作成し、当該会計年度終了後 2 か月以内に理事会及び評議員会に提出している。なお、監事が出席していない理事会、評議員会が数回開催され、学校法人の業務及び財産の状況について適切に把握した監査業務が行われていなかった点については、機関別評価結果の判定までに改善されたことを確認した。

評議員会は、私立学校法及び寄附行為に基づき、理事定数の 2 倍を超える人数で組織され、予算及び重要な資産の処分に関することや事業計画等について意見を述べ、理事長を含め役員の諮問機関として役割を果たしている。

学校法人の各部門の事業計画案は、法人本部事務局に提出され、理事長及び法人本部事務局が適宜ヒアリングを行っている。予算は、3 月開催の評議員会で意見を聞き、理事会に諮り決定される。計算書類については、学校法人の経営状況及び財政状態を適正に表示している。資産及び資金の管理と運用は、規程に従って、安全かつ適正に管理・運営している。

教育情報及び財務情報は、ウェブサイトにおいて公表・公開している。

選択的評価結果

本協会は、短期大学の個性を伸長させることを目的として、「教養教育の取り組み」、「職業教育の取り組み」、「地域貢献の取り組み」という三つの選択的評価基準を設けている。これらの三つの取り組みは4基準にも含まれているが、各短期大学の取り組みの特色がより鮮明になるよう、4基準とは別に設定した。

選択的評価は個々の短期大学の希望に応じて実施し、課外活動も含め、それぞれの独自性が一層発揮されるよう当該短期大学の取り組みの達成状況等について評価を行った。

地域貢献の取り組みについて

総評

研究成果及び教育機能を広く社会に提供し、地域貢献に資することを目的に、公開講座開設等の事業を行う「湖国カルチャーセンター」を設置している。なかでも「書道講座」と「水彩画講座」では、「滋賀文教短期大学大学書展」、「水彩画講座水曜会作品展」を開催し、学生の授業内での作品も出展していることから、学習成果発表と地域交流の機会となっている。

子ども学科においては、地域の未就学児とその保護者を支援する「ぶんぶんひろば」を実施している。平成27年度は7回開催し、市内唯一の、保育士養成施設が実施する講座として、地域の支持を得ている。

平成8年度から平成27年度まで、文部科学大臣の委嘱を受け、図書館司書講習を開講し、その間1000人を超える司書有資格者を養成している。

地域社会との交流及び連携活動が実績となり、「平成27年度私立大学等改革総合支援事業（タイプ2 特色を発揮し、地域の発展を重層的に支える大学づくり）」に採択された。あわせて「平成27年度私立学校施設整備費補助金（私立学校教育研究装置等施設整備費（私立大学・大学院等教育研究装置施設整備費）」を獲得し、子ども学科における保育士養成や、子育て支援（「ぶんぶんひろば」等）を充実させるための実習施設を建設することとなった。

地域行政との活動については、平成27年度に「長浜市と滋賀文教短期大学との協力に関する包括連携協定書」を締結し、教育、文化、生涯学習、地域社会の活性化に関することなど、包括的に連携協力していくことが示された。また、これに基づく連携協定として「長浜市と長浜警察署及び滋賀文教短期大学との交通安全推進活動に関する連携協定書」を締結し、市と警察と大学の三者が協力して交通安全推進活動を展開する体制が作られている。

ボランティア活動についても上記の「交通安全推進活動に関する連携協定」を契機として、活発化している。子ども学科の学生は、交通安全を題材にした寸劇の披露や、交通安全教室の補助を行った。国文学科の学生は街頭啓発活動や、交通安全フェスティバルの準備や当日の手伝いを行った。

国文学科の必修科目「基礎力プログラムⅢ」では、ボランティアによる地域貢献と、学

生の学習を結び付けたサービスラーニングを実践しており、さらに「基礎力プログラムⅣ」において、その実践結果の検証及び学習成果の発表を行っている。

長浜市では、自らの力や他者との協力の中で「生きる力」を身に付けることをねらいとして、小中学生が、地域の協力を得て公民館等で一定期間寝泊まりし、そこから学校に通う「通学合宿」という取り組みが行われており、子ども学科の学生を中心にボランティアとしてこの活動に参加している。

当該短期大学の特色が表れている取り組み

- 研究成果及び教育機能を広く社会に提供し、地域貢献に資することを目的に、公開講座開設等の事業を行う「湖国カルチャーセンター」を設置している。書道講座は「滋賀文教短期大学大学書展」、水彩画講座は「水彩画講座水曜会作品展」と題して一般開放しており、多くの受講生が出品している。また、学生の授業内での作品も展示しており、受講生や地域の方に学習成果を発表する機会ともなっている。
- 子ども学科において、地域の未就学児とその保護者を支援する「ぶんぶんひろば」を実施している。この取り組みは、学生が子どもたちと交流できる機会として、また、保護者が保育の専門知識を有する当該短期大学の教員に相談できる機会として、貴重な場となっている。さらに、この主体的な子育て支援や保育活動は、学生のサービスラーニングの機会にもなっており、学習成果の獲得につながっている。
- 県内の短期大学・大学で唯一の司書課程をもつ短期大学として、平成 8 年度から文部科学大臣の委嘱を受け、図書館司書講習を開講している。平成 27 年度で 20 年を迎え、その間 1000 人を超える司書有資格者を養成し地域に貢献してきた。
- 長浜市と長浜警察署及び当該短期大学との三者が連携し、交通安全推進活動を実施している。市と警察と大学の三者が、協定を締結して連携する取り組みは滋賀県内初の試みであり、これを契機として、学生のボランティア活動が活発化している。さらに、この推進活動を授業に結び付け、学習成果の獲得に生かすサービスラーニングの実現について検討している。
- 国文学科の必修科目「基礎力プログラムⅢ」は、授業において、地域で募集されているボランティアの調査、選定するためのグループディスカッション、日程調整や交渉等を行い、夏期休業期間中に実践することを課すという、ボランティアによる地域貢献と、学生の学習を結び付けたサービスラーニングの実践となっている。さらに、その実践結果の検証及び学習成果の発表を「基礎力プログラムⅣ」で行っており、これらの地域貢献の活動を学生の学習成果獲得の機会として生かしている。

平成 29 年度 ぶんぶんひろば実施要綱

1. 名前 ぶんぶんひろば

2. 目的

- * 学生と教員の保育力を活かして地域課題である社会に貢献する場を学内に設け、子育て中の地域の住民と楽しく有意義な時間を共有する。
- * 子ども学科の学生が【ぶんぶんひろば】を通して乳幼児とふれあい保育の実践力を高め実施する。
- * 本学の課外活動としての子育て支援や保育活動を通して 1・2 年生・国文学科の交流を活性化する。
- * 地域課題としての子育て支援や、子育て支援に資することのできる人材養成について、ぶんぶんひろばを通して、教員が実践事例研究を行う。

3. 開催回数と時期

【ぶんぶんひろば】は年 7 回、春・秋共に水曜

時間：10：45～12：00（2 時限目）とする。

事前打ち合わせを 2 回、基礎力プログラムの授業内で行う。『別紙参照』

4. 対象者 乳幼児（0～5 歳児）30 数名とその保護者

5. 指導者 本大学こども学科教員

6. 保護者等への周知

案内文は、教員指導の下において、国文学科学生が作成し、長浜市内に広報する。

- * 水分補給は各自がすること。
- * おやつはなし

7. 学生への周知

- ① 基礎力プログラムの授業内にて全員に担当教員が周知する。
- ② 春学期は 2 年生、秋学期は 1 年生が主体的に行う。
- ③ 当日の指導案は事前に担当するグループが作成し担当教員に提出
- ④ 事前打ち合わせ、環境準備等の担当を決めグループ内で行う。
- ⑤ リハーサルは当日基礎力プログラムの 1 時限目に全員参加の上行う。
- ⑥ 【ぶんぶんひろば】は 2 時限目に担当グループ、駐車場グループが参加。

8. 安全面

保護者負担として毎回参加する乳幼児、保護者各 1 名に 50 円（グループ事業傷害保険料）として、当日受付で保護者が支払う。（お金の受け渡しは教員がする）

平成 29 年度ぶんぶんひろば

回	日 時	内 容
1	4/26 (水)	ふれあいあそび
2	5/24 (水)	身体を動かしたあそび
3	7/12 (水)	夏のあそび
4	9/27 (水)	さわってあそぶ
5	10/25 (水)	ミニ運動会
6	11/29 (水)	楽器あそび
7	12/20 (水)	お楽しみ会

就学前教育にかかる人材確保の現状と課題

【幼児課・就学前教育にかかる人材確保対策について】

■はじめに

「長浜市就学前教育カリキュラム」の策定

教育施設・保育施設を一元化



 幼児期における質の高い保育・教育の実践



 保育士の確保が喫緊の課題

■保育士人材確保の現状と課題について

保育士不足

H27～H29 長浜市立園所 教諭・保育士等数の推移

	H27	H28	H29
正規定数	277	294	303
正規配置数	237	234	237
正規の欠員数	40	60	66
正規・臨時・パート 必要数	557	578	570
正規・臨時・パート 配置数	548	541	525
総欠員数	9	37	45

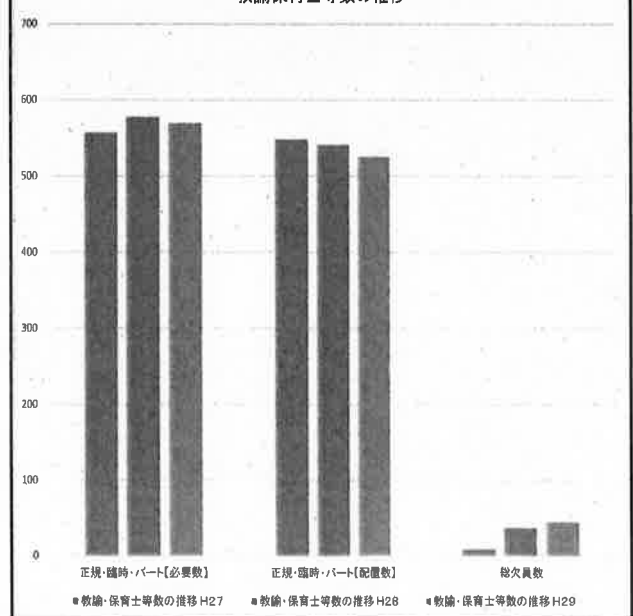
「潜在保育士」が全国で約16万人


 資格を有しながら
 保育士としての勤務を
 希望しない

理由は？

- ・賃金が希望と合わない
- ・休暇が少ない、休暇が取りにくい
- ・責任の重さ、事故への不安
- ・就業時間が希望と合わない

教諭保育士等数の推移



■ 保育士人材確保の方策について

- ・ 処遇改善や勤務環境の改善に取り組む
- ・ 事故や保護者対応など、サポート体制の充実
- ・ 行政と大学が連携したキャリア支援
- ・ 保育実習の充実

- ☆ 看護師・養護教諭・事務職等 専門職の配置
- ☆ 長浜市保育士等奨学金返還支援事業
- ☆ 採用試験 経験者枠

H23～H28 長浜市立園所 担任・副担任手当の推移

	園・所	担任手当	副担任手当
H 2 3	保育園	1, 0 0 0 円	1, 0 0 0 円
	幼稚園	3, 0 0 0 円	なし
H 2 4	保育園	6, 0 0 0 円	2, 0 0 0 円
	幼稚園	6, 0 0 0 円	なし
H 2 8	幼・保・認	1 0, 0 0 0 円	4, 0 0 0 円

『長浜市保育士等奨学金返還支援金』

長浜市で保育士等として働かれる方に奨学金の返還を支援します！！

修学のため奨学金を借り、卒業して長浜市内の保育施設等に就業された場合に、奨学金の返還に要する経費に対して支援するものです。

対象者 (次のいずれにも該当すること)

- ①平成30年度から平成34年4月1日までに市内の保育所・認定こども園・幼稚園に就業した保育士等（平成29年度以前に、市内の保育所・認定こども園・幼稚園での勤務実績のない人）
- ②支援申請の年度を通じて1年間継続して勤務した人
- ③常勤（週30時間以上勤務）の保育士・幼稚園教諭・保育教諭であること
- ④大学・短大・専修学校専門課程の在学中に「日本学生支援機構」奨学金の貸与を受けた人

支援内容

- ①奨学金の貸与を受けた月数に2万円を乗じた額（「支援基準額」、最大96万円）を上限に、返還を支援します。
- ②4月に支援金の申込みを行い、1年間の勤務ののちに支援金が交付されます。
- ③支援金の交付は3回まで行います。各回の交付額は次の通りですのでご注意ください。

- * 1回目（1年目） 「支援基準額」と当該年度4月1日の奨学金返還残額を比較して低い方の額の6分の1
- * 2回目（2年目） 「支援基準額から既交付額を引いた額」と当該年度4月1日の奨学金返還残額を比較して低い方の額の5分の1
- * 3回目（3年目） 「支援基準額から既交付額を引いた額」と当該年度4月1日の奨学金返還残額を比較して低い方の額

- ④支援金の交付は、当該年度において支援額相当の奨学金の返還が行われていることが条件となります。
- ⑤毎年度4月に申込受付を行います。



※この事業は、平成37年度までの期間限定事業として実施する予定のものです。

問合せ・申込先 〒526-8501 長浜市八幡東町 632 番地 長浜市役所 5階
長浜市教育委員会事務局 幼児課 電話 0749-65-8607

保育人材確保のための 『魅力ある職場づくり』に向けて

平成26年8月

厚生労働省

保育分野における人材不足の原因・理由①

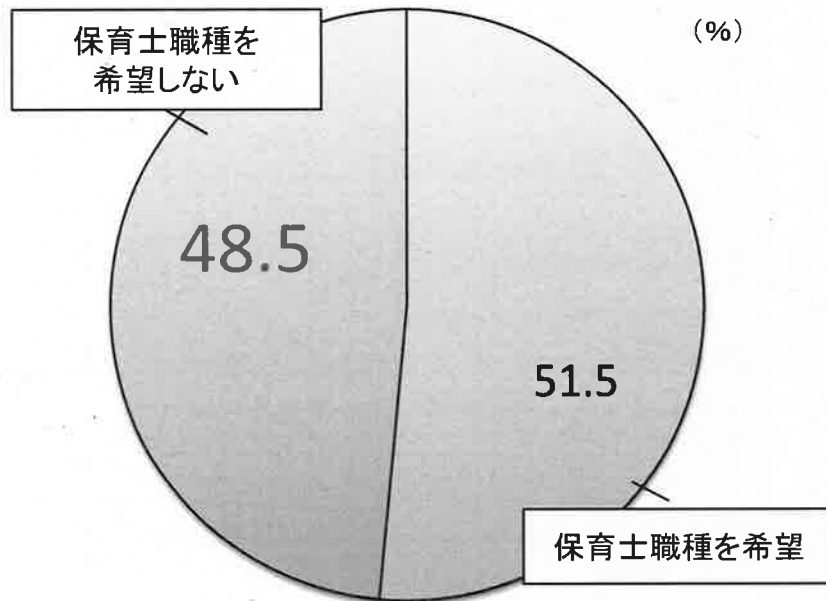
保育分野（1. 現状と課題）

就業希望者が増えない理由

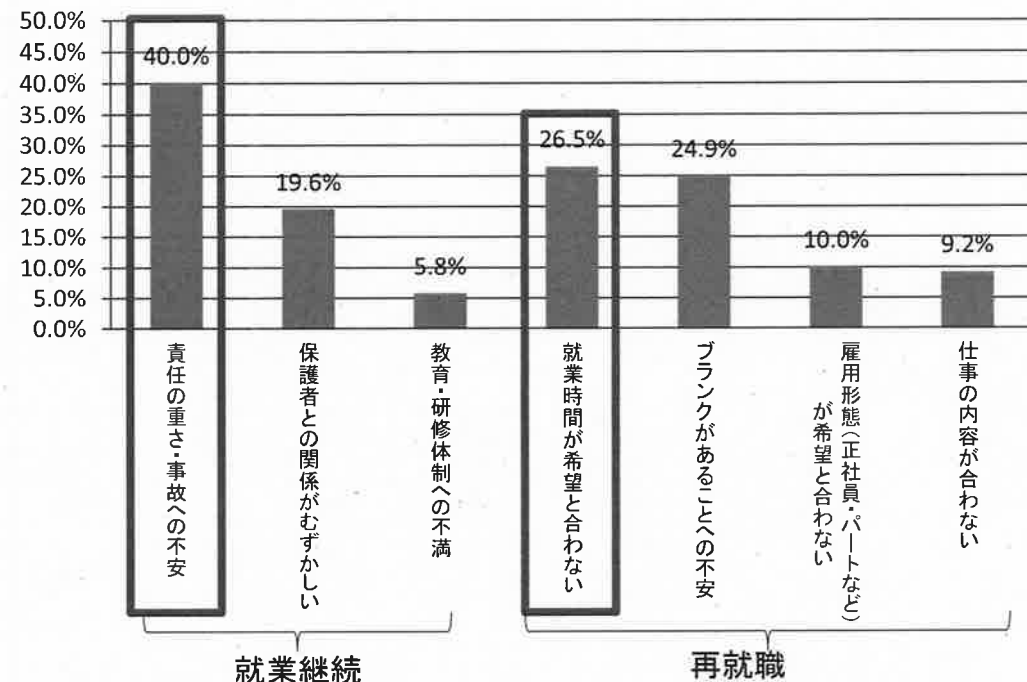
- 保育士資格を有するハローワーク求職者のうち約半数は保育士としての就業を希望していません。
- 保育士職への就業を希望しない理由で、就業継続に関する項目としては「責任の重さ・事故への不安」が最も多く、再就職に関する項目としては「就業時間が希望と合わない」が最も多い。

➡ 入職者を拡大するためには、入職に対する不安を取り除くサポート体制や、家庭の状況などにより就業時間へ配慮等が必要

【保育資格保有求職者における
保育士職種の就業を希望する割合】



【保育士としての就業を希望しない理由】(複数回答)



【出典】厚生労働省「主な人手不足職種に関するハローワーク求職者の免許・資格の保有状況(労働市場分析レポート 第3号)」
厚生労働省職業安定局「保育士資格を有しながら保育士としての就職を希望しない求職者に対する意識調査」(平成25年)

保育分野における人材不足の原因・理由②

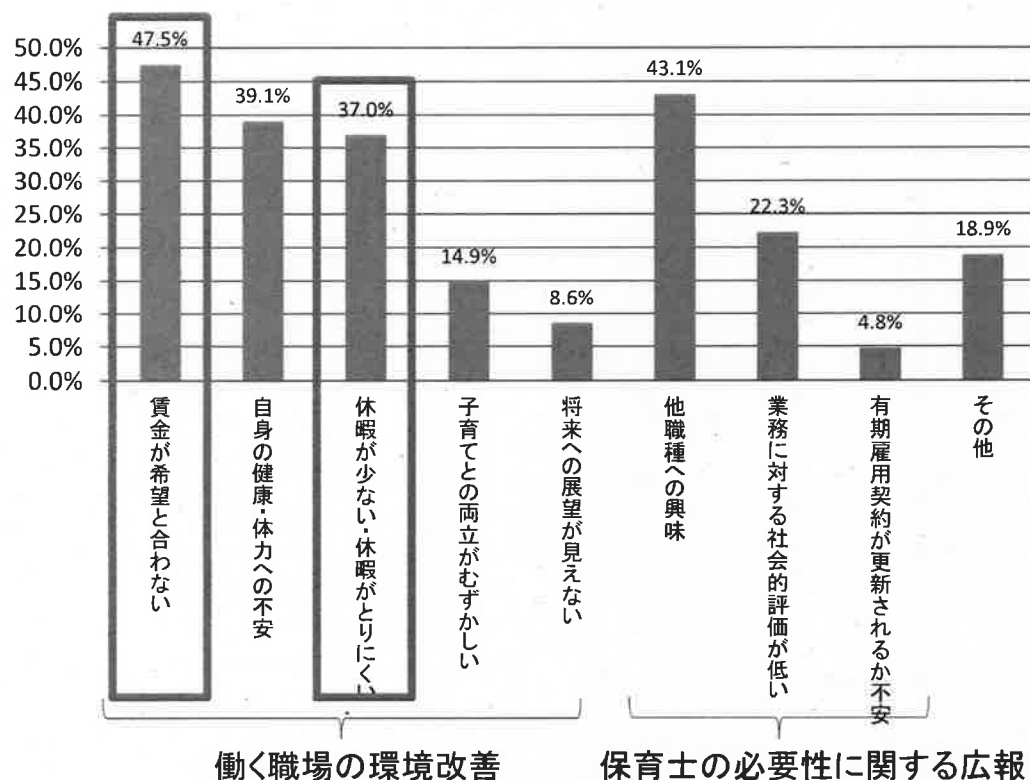
保育分野 (1. 現状と課題)

就業希望者が増えない理由

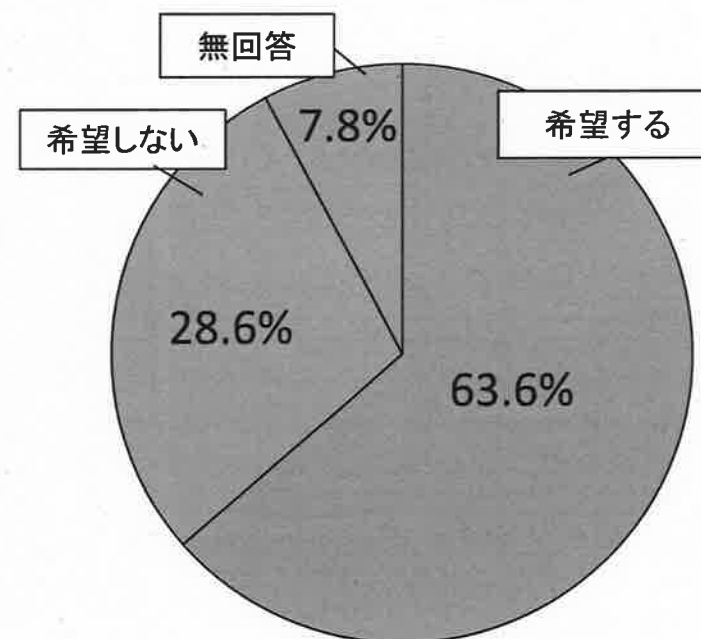
- 保育士職への就業を希望しない理由で、働く職場の環境改善に関する項目としては、「賃金が希望と合わない」が最も多く、「休暇が少ない・休暇がとりにくい」ことなどが挙げられている。
- 保育士職への就業を希望しない理由が解消した場合、63.6%の者が保育士を希望。

➡ 入職者を拡大するためには、処遇改善や勤務環境の改善に取り組み、職場としての魅力高めることが必要。

【保育士としての就業を希望しない理由】(複数回答)



【就業を希望しない理由が解消した場合の保育士への就業希望】



(注) 回答者1人当たりの希望しない理由選択数が3.7と多岐に渡っていることに留意が必要。

【出典】厚生労働省「主な人手不足職種に関するハローワーク求職者の免許・資格の保有状況(労働市場分析レポート 第3号)」
厚生労働省職業安定局「保育士資格を有しながら保育士としての就職を希望しない求職者に対する意識調査」(平成25年)

滋賀文教短期大学

概要説明



平成29年6月28日 長浜市第一回総合教育会議

学校法人松翠学園 滋賀文教短期大学

理事長・学長 松本博文

法人本部：岐阜県羽島郡岐南町三宅1-130

平成29年度在籍者数
1年生 93名
2年生 58名
合計 151名

◆ 建学の精神

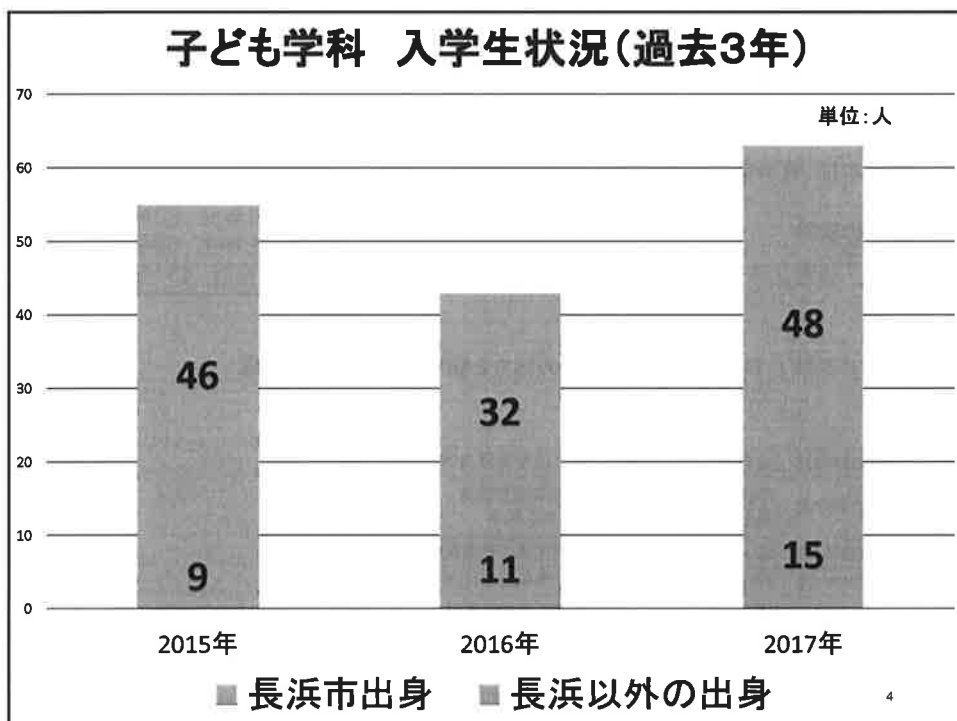
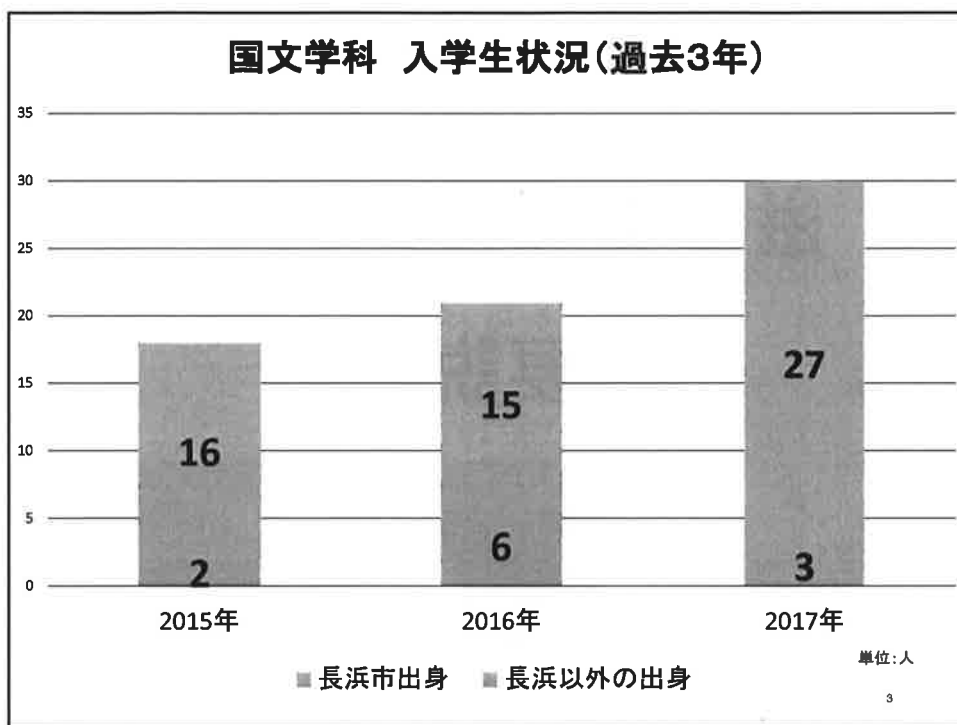
「知育」「徳育」「体育」の鼎立と調和のとれた人間形成

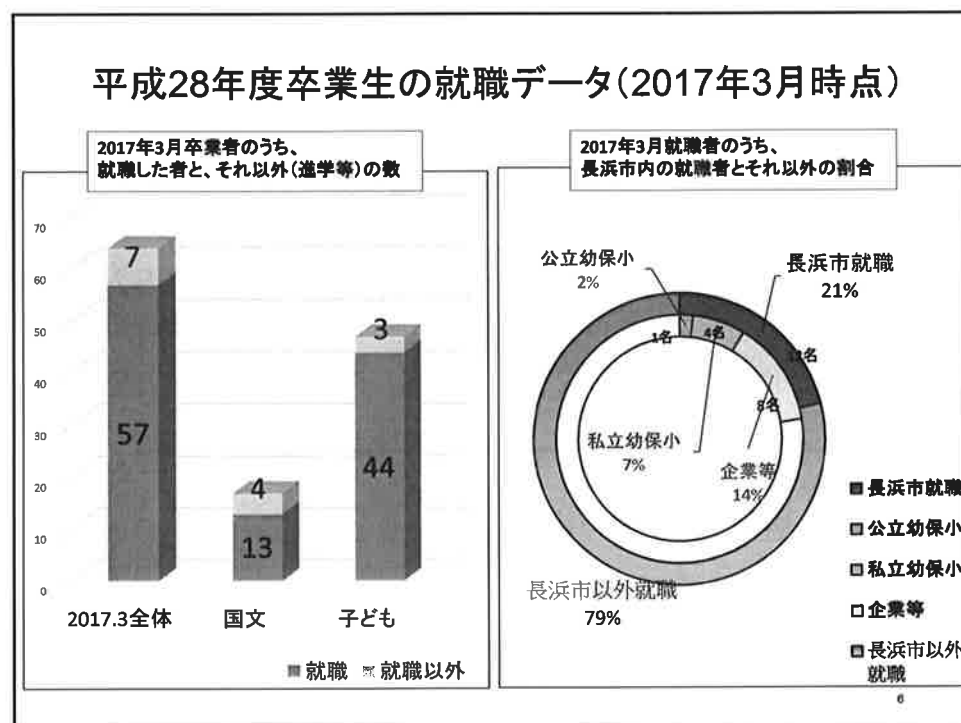
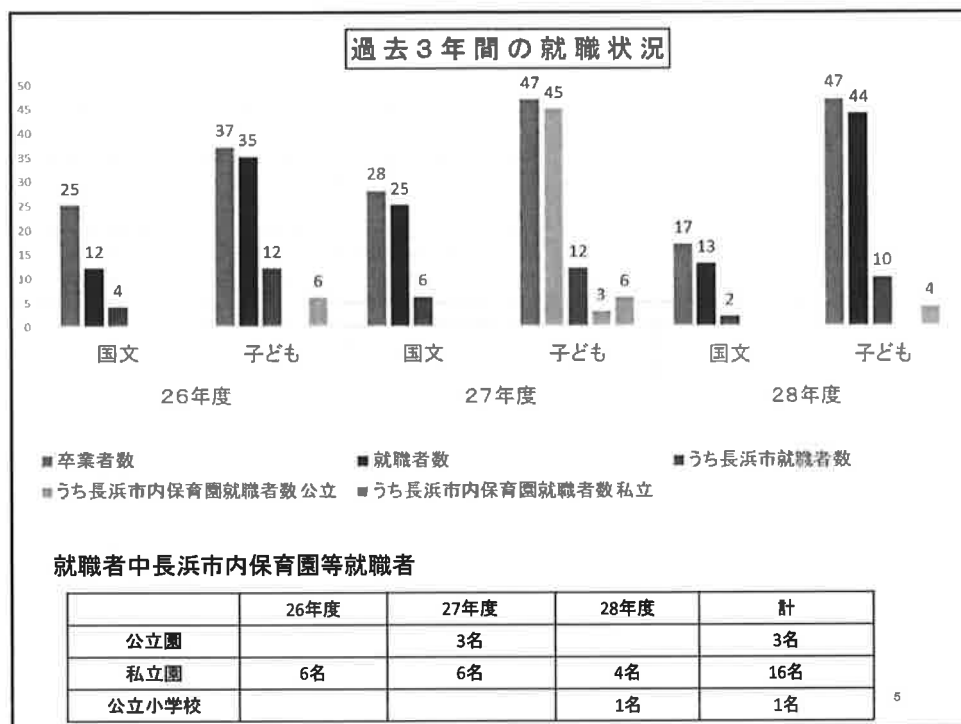
◆ 学訓

「信義」「至誠」「質実」「温和」「漸進」の鼎立と調和のとれた人間形成

◆ 沿革

昭和15年3月	岐阜県郡上市八幡町に郡上高等実科女学校開校
昭和27年3月	学校法人岐阜県濃北短期大学設立認可 濃北短期大学を設立し国文科を開学
昭和33年4月	法人名を学校法人岐阜短期大学に学名を岐阜短期大学に変更
昭和34年4月	所在地を岐阜県本巣市糸貫町仏生寺に移転
昭和50年4月	法人名を学校法人松翠学園に学名を滋賀文教短期大学に変更 所在地を滋賀県長浜市田村町に移転
平成17年2月	タイ国セントジョーンズカレッジと姉妹提携
平成18年4月	初等教育科に保育士養成コースを新設
平成26年8月	長浜市と包括連携協定締結





国文学科

7

国文学科

各学年 定員50名

➤ 日本文学コース	47名	}	合計 52名 (内1名休学者)
* 図書館司書資格			
➤ 留学生コース	5名		

平成29年度

タイ 4名 セネガル 1名

- ・市内のボランティアや行事にも積極的に参加
- ・毎年9月に本学からタイの姉妹校訪問、交流を実施

8

国文学科

ポイント

- ①図書館司書資格
- ②長浜市との連携（基礎力プログラム他）
- ③タイ国との交流



9

国文学科

面接や入学後の面談で聞く、学生の志望理由

【環境に関して】

•少人数でアットホームな環境がよい。



ほぼ100%の回答

【学びに関して】

滋賀県内で唯一、「司書資格」が取得できる大学

•司書資格を取得したい。

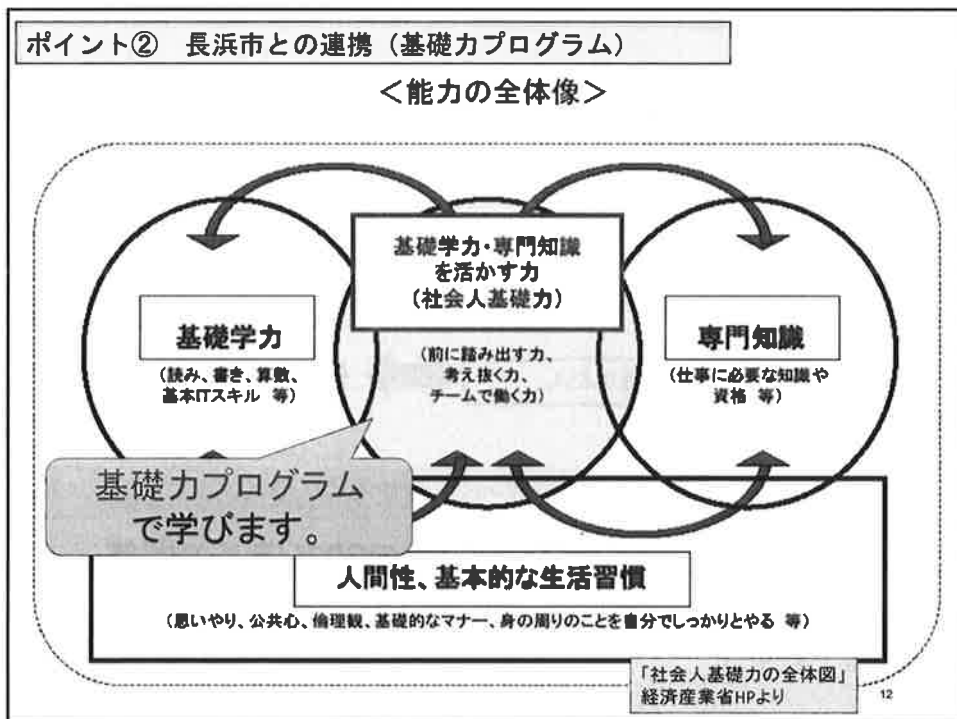


入学者の90%ほどの回答

•現時点で将来の目標は曖昧なので、教養を身につけ、就職を目指したい。

•短期間で学びたい。

10



ポイント② 長浜市との連携（基礎力プログラム）

平成28年度実施

長浜市市民活躍課と長浜警察署交通課と連携した

サービスラーニング



STEP1
長浜警察署交通課より、
地域の課題の提供

13

ポイント② 長浜市との連携（基礎力プログラム）

平成28年度実施

長浜市市民交流課と長浜警察署交通課と連携した

サービスラーニング



STEP2
課題解決のための
グループディスカッション

14

ポイント② 長浜市との連携（基礎力プログラム）

平成28年度実施

長浜市市民交流課と長浜警察署交通課と連携した

サービスラーニング



STEP3 プレゼンテーション

15

ポイント② 長浜市との連携（基礎力プログラム）

平成28年度実施

長浜市市民交流課と長浜警察署交通課と連携した

サービスラーニング



STEP4 実践

16

ポイント② 長浜市との連携（基礎力プログラム）

平成28年度実施

長浜市市民交流課と長浜警察署交通課と連携した

サービスラーニング



STEP5 自己点検・評価

17

ポイント② 長浜市との連携（基礎力プログラム）

ポイント③ タイ国との交流

- 平成28年度より、長浜市立長浜図書館とのインターン事業もスタート
- 平成29年度は、留学生コースと、長浜市スポーツ振興課、長浜南小学校との連携事業を予定

10月16日（月）

「長浜南小と滋賀文教短期大学とのスポーツ交流事業」

（長浜南小50周年記念事業）

- ✓ 1年生留学生（タイ、セネガル）が特別講師として参加予定

18

子ども学科

19

子ども学科

各学年 定員50名

- 保育士養成コース 97名
 - * 保育士資格
 - * 幼稚園教諭二種免許状
 - 小学校教諭養成コース 6名
 - * 小学校教諭二種免許状
 - * 幼稚園教諭二種免許状
 - * 学校図書館司書教諭資格
- 合計 103名

20

子ども学科

ポイント

①少人数

②長浜市との連携



21

ポイント1

少人数

H28 各大学HP「教育情報の公表」より

滋賀県内で幼児教育が学べる

A短大

定員170人(2学年で340人)÷専任教員11人=1人当たり30.9人

B大学短期大学部

定員80人(2学年で160人)÷専任教員9名(全3コースの総数)=8.8人

滋賀文教短期大学

定員50人(2学年で100人)÷専任教員15人(2コースの総数)=6.6人

22

★担任制で支援

- ・1人の教員に、学生5～6名程度



★充実した音楽教育

- ・専任教員2名＋非常勤教員5名
- ・分割授業 ・補講
- ・入学前教育 ・翠湖館



★アットホームな卒後指導

- ・ぶんぶんのつどい(新卒対象フォローアップ研修)
- ・元気会(ホームカミングデイ)

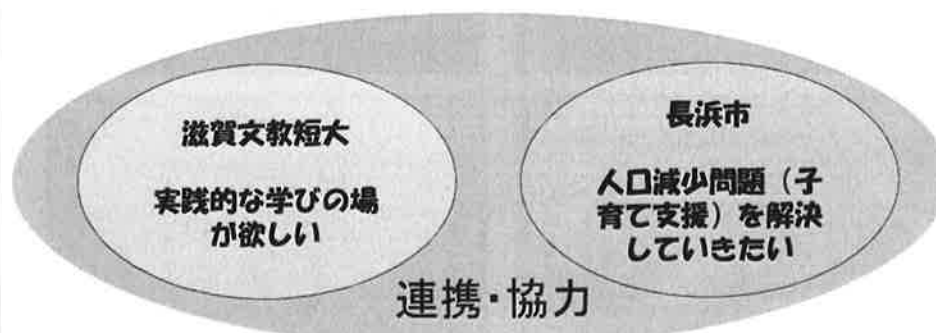
23



平成29年6月4日(日) ぶんぶんのつどい(新卒対象フォローアップ研修) 24

ポイント2

長浜市との連携



長浜市と滋賀文教短期大学との協力に関する包括連携協定

25

子育て支援にかかる課題解決に資するための連携

□ 長浜市と滋賀文教短期大学との連携協議会（年2回開催）

長浜市幼児課

人口減少（子育て支援）の課題 ➡ ✓ 子ども学科（保育士養成）への期待
✓ 教育課程等への期待 等

子ども学科

実践力の養成等の課題 ➡ ✓ 講師派遣の依頼
✓ 「ぶんぶんひろば」への後援依頼 等

□ 長浜市からの講師派遣

現役保育士の方による講演	とらひめ認定こども園園長 古川礼子様 (29.6.28)
長浜市採用試験等の説明	長浜市幼児課 課長 堀浩次様 長浜市幼児課 参事 上崎順子様 (29.5.31)
子ども学科進路フェア(仮)	2年生 臨時採用等の情報収集 1年生 長浜市公立園の特色等を知る

10月頃の開催を企画中
今後相談予定

□ 「ぶんぶんひろば」の後援

□ 交通安全推進に関する連携

長浜市と長浜警察署及び滋賀文教短期大学との交通安全推進活動に関する連携協定書(27.8.12)
その他多数

26

★ぶんぶんひろば



27

★交通安全推進活動

子育て世代が安心して暮らせる長浜市へ



28

子育て支援にかかる課題解決に資するための連携

今年度から、長浜市内私立保育園との交流についても企画

□ 長浜市内私立保育園との懇話会【新規】

私立保育園についても学び、意見を聴取する機会

□ 子ども学科進路フェア(仮)【新規】

2年生 求人情報の収集

1年生 長浜市私立園の特色等を知る

公立・私立

早い時期から園を知ること

長浜市の園と接触を持つこと

長浜市保育士等奨学金返還支援金を知ること



29

ご清聴ありがとうございました。



30

